

2025 大阪・関西万博を契機とした地方公共団体による
地域活性化に資する中南米地域との国際交流調査

調査報告書

株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

令和7年3月

NTT Data

株式会社 NTTデータ 経営研究所

目次

第1章. 調査概要	1
1. 調査の背景・目的	1
2. 実施内容	2
第2章. 調査対象プロジェクトの実施結果	3
1. 調査対象プロジェクトの概要	3
2. 事業の成果概要	7
3. 他自治体への普及・展開方策	11
(1) 交流事業の計画策定及び実施にあたっての過程の評価	11
(2) 事業の達成に向けた調査対象自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制	13
(3) 万博閉会後の事業継続性（相手国との関係性の評価）	15
第3章. 成果のとりまとめ	16
1. 関西ウォーカーへの記事掲載	16
(1) 実施概要	16
(2) 各自治体の掲載記事	16
2. 各調査対象プロジェクト	21
A. 東京都渋谷区	21
(1) 背景と目的	21
(2) 事業内容	21
(3) 実施に至った経緯	24
(4) 実施スケジュール	25
(5) 実施体制	25
(6) プロジェクトの目標に対する成果	25
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	26
(8) 特に良かった点、苦労した点	26
(9) 今後の課題	27
(10) 今後の展開内容	27
(11) 持続的に展開するための工夫	27
B. 富山県南砺市	28
(1) 背景と目的	28
(2) 事業内容	28
(3) 実施に至った経緯	32
(4) 実施スケジュール	32
(5) 実施体制	32
(6) プロジェクトの目標に対する成果	32
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	33

(8) 特に良かった点、苦労した点	33
(9) 今後の課題	33
(10) 今後の展開内容	33
(11) 持続的に展開するための工夫	34
C. 福井県	35
(1) 背景と目的	35
(2) 事業内容	35
(3) 実施に至った経緯	40
(4) 実施スケジュール	40
(5) 実施体制	41
(6) プロジェクトの目標に対する成果	41
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	41
(8) 特に良かった点、苦労した点	42
(9) 今後の課題	42
(10) 今後の展開内容	43
(11) 持続的に展開するための工夫	43
D. 三重県	44
(1) 背景と目的	44
(2) 事業内容	44
(3) 実施に至った経緯	45
(4) 実施スケジュール	45
(5) 実施体制	46
(6) プロジェクトの目標に対する成果	46
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	47
(8) 特に良かった点、苦労した点	47
(9) 今後の課題	47
(10) 今後の展開内容	48
(11) 持続的に展開するための工夫	48
E. 滋賀県	49
(1) 背景と目的	49
(2) 事業内容	49
(3) 実施に至った経緯	51
(4) 実施スケジュール	52
(5) 実施体制	52
(6) プロジェクトの目標に対する成果	52
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	52

(8) 特に良かった点、苦労した点	52
(9) 今後の課題.....	53
(10) 今後の展開内容	53
(11) 持続的に展開するための工夫.....	53
F. 京都府	54
(1) 背景と目的	54
(2) 事業内容.....	54
(3) 実施に至った経緯.....	59
(4) 実施スケジュール	59
(5) 実施体制	59
(6) プロジェクトの目標に対する成果	59
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	60
(8) 特に良かった点、苦労した点	60
(9) 今後の課題.....	60
(10) 今後の展開内容	60
(11) 持続的に展開するための工夫.....	60
G. 大阪府大阪市（ポリビア）	61
(1) 背景と目的	61
(2) 事業内容.....	61
(3) 実施に至った経緯.....	64
(4) 実施スケジュール	64
(5) 実施体制	64
(6) プロジェクトの目標に対する成果	65
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	67
(8) 特に良かった点、苦労した点	68
(9) 今後の課題.....	68
(10) 今後の展開内容	68
(11) 持続的に展開するための工夫.....	69
H. 大阪府大阪市（ブラジル）	70
(1) 背景と目的	70
(2) 事業内容.....	70
(3) 実施に至った経緯.....	73
(4) 実施スケジュール	73
(5) 実施体制	74
(6) プロジェクトの目標に対する成果	74
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	78

(8) 特に良かった点、苦労した点	78
(9) 今後の課題.....	78
(10) 今後の展開内容	78
(11) 持続的に展開するための工夫.....	79
I. 大阪府大阪市（ペルー）	80
(1) 背景と目的	80
(2) 事業内容.....	80
(3) 実施に至った経緯.....	82
(4) 実施スケジュール	82
(5) 実施体制	82
(6) プロジェクトの目標に対する成果	82
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	83
(8) 特に良かった点、苦労した点	83
(9) 今後の課題.....	83
(10) 今後の展開内容	84
(11) 持続的に展開するための工夫.....	84
J. 鳥取県	85
(1) 背景と目的	85
(2) 事業内容.....	85
(3) 実施に至った経緯.....	87
(4) 実施スケジュール	87
(5) 実施体制	88
(6) プロジェクトの目標に対する成果	88
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	88
(8) 特に良かった点、苦労した点	88
(9) 今後の課題.....	89
(10) 今後の展開内容	89
(11) 持続的に展開するための工夫.....	89
K. 広島県北広島町	90
(1) 背景と目的	90
(2) 事業内容.....	90
(3) 実施に至った経緯.....	93
(4) 実施スケジュール	94
(5) 実施体制	94
(6) プロジェクトの目標に対する成果	95
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	95

(8) 特に良かった点、苦労した点	95
(9) 今後の課題.....	96
(10) 今後の展開内容	96
(11) 持続的に展開するための工夫.....	97
L. 香川県	98
(1) 背景と目的	98
(2) 事業内容.....	99
(3) 実施に至った経緯.....	101
(4) 実施スケジュール	101
(5) 実施体制	102
(6) プロジェクトの目標に対する成果	102
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	104
(8) 特に良かった点、苦労した点	104
(9) 今後の課題.....	105
(10) 今後の展開内容	105
(11) 持続的に展開するための工夫.....	105
M. 大分県竹田市	106
(1) 背景と目的	106
(2) 事業内容.....	106
(3) 実施に至った経緯.....	106
(4) 実施スケジュール	107
(5) 実施体制	107
(6) プロジェクトの目標に対する成果	107
(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与	107
(8) 特に良かった点、苦労した点	107
(9) 今後の課題.....	107
(10) 今後の展開内容	107
(11) 持続的に展開するための工夫.....	108
3. 各調査対象プロジェクトのアンケート結果	109

第1章. 調査概要

1. 調査の背景・目的

2025 年国際博覧会（以下「大阪・関西万博」という。）は、20 年ぶりに我が国で開催される国際博覧会である。諸外国の関心も高く、現時点で 158 の国・地域の参加表明が得られている。国際博覧会は、かつては、各国の産品や最新の科学技術の展示を目的とするものであったが、近年は、人類共通の社会的課題解決を目的とするものになり、各国の団体や人々が相互に意見交換を行う機会の創出等の参加型のイベントも開かれるようになった。自治体や地域住民にとっても、大阪・関西万博に参加し、各国と交流することを通じて、地域の未来を担う若者の国際感覚の涵養、地域の魅力の再発見、住民間の結びつきの強化、地域産業の活力増強などが期待できると考えられる。大阪・関西万博の機会を活用した国際交流事業の在り方については、国及び自治体における知見の蓄積が十分ではないため、令和 5 年度に地域活性化に資する国際交流の取組みに係る調査を、自治体を公募して実施した。

しかし、申込のあった自治体の相手国は欧米やアジア地域が大部分であったため、万博を契機として①中東地域②アフリカ地域③大洋州島嶼国地域④中南米地域と自治体の交流を促進する仕組みを調査する必要性が明らかになった。

本事業においては、④との国際交流の取組事例を調査・分析し、地域活性化に資する国際交流施策の係る先導的事例の横展開に必要な取組モデルの開発・精緻化を図る。

2. 実施内容

本調査は、内閣官房国際博覧会推進本部事務局（以下「主管事務局」という。）と連携しながら、2025年の万博開催期間や事前交流における国際交流事業の実施に向けて、前述の目的の趣旨に合致すると思われる取組を行う調査対象自治体に対する調査を実施する。具体的な実施内容は、以下の通りである。

調査実施内容

No	調査実施項目	調査実施内容
1	調査対象自治体と相手国との交流マッチング支援	・ 主管事務局が選定した自治体のうち交流相手国が決まっていない自治体に対して、交流相手国のマッチング支援を行う。
2	調査対象プロジェクトの計画策定	・ 調査対象自治体、コーディネーター及び交流相手国と協議し、万博国際交流の企画案の作成を行い、当該年度から大阪・関西万博に向けた交流計画書を取りまとめる。
3	調査対象自治体の取組への伴走業務	・ 策定した計画に基づく交流事業に対して支援を行うこと。具体的には、自治体が取り組む事業の準備・実施・取りまとめにあたり、調査対象自治体に対し、打ち合わせ、アドバイス、関係団体への取り次ぎ、進捗管理またはヒアリング等を実施する。

第2章. 調査対象プロジェクトの実施結果

1. 調査対象プロジェクトの概要

自治体と共にコーディネーターにより企画された子どもを中心とする国際交流の取組事例を調査・分析し、地域の活性化に資する国際交流施策の係る先導的事例の横展開に必要な取組モデルの開発・精緻化を図った。各自治体における調査対象プロジェクトの実施概要を以下に示す。

調査対象プロジェクトの実施概要

No	自治体名	実施概要
A	東京都渋谷区	渋谷区は、区内に駐日ペルー共和国大使館が置かれていることに端を発し、2024年6月にペルー共和国リマ市ミラフローレス区との姉妹都市提携を締結。万博国際交流プログラムを活用して、渋谷区立広尾小学校での万博紹介出前講座の開催やペルー料理給食交流、区内在住の大学生をペルーに派遣し、ペルー政府機関等で渋谷区の紹介をし、ペルーの現地大学生との交流を図ることで、姉妹都市交流の促進し、万博への機運を高めることに繋げた。
B	富山県南砺市	トリニダード・トバゴからスティールパン奏者を招き、市内在住の中学生以上のメンバーで構成される市民バンド・市内小学校のスティールパンクラブに対してワークショップを実施、交流結果を地元の音楽祭で発表した。また、現地小学校に向けて万博の紹介と併せて世界各国の様々な楽器とその文化について紹介するワークショップを実施。地域全体における異文化理解の促進、教育的価値の提供、音楽を通じた国際交流の活性化を推進した。
C	福井県	ブラジルとの交流活発化を目的に、福井県立大学生によるブラジル滞在による福井村訪問や現地PRイベントの開催、帰国後の滞在パネル展や、福井村出身者による学生・市民向け講座・講演会を開催した。県民向けには専門家による講義、ブラジルを訪問した福井県立大学の学生によるブラジル訪問の結果報告、万博の周知を行うことで、相手国・万博について広く興味関心を高めた。
D	三重県	ブラジル大志万学園の三重県訪問に合わせて、県内の2高校との交流を実施し、若者間の相互交流を促進した。ま

No	自治体名	実施概要
		た、ブラジルからの訪問団の宿泊施設を農家民泊とし、三重県の山・川・海などの自然や昔ながらの日本の生活習慣を体験できるプログラムを提供した。こうした県内学校との交流、農林漁業体験民宿での体験を交え三重県の伝統文化理解を促進した。
E	滋賀県	コロナ禍以降、往来が途絶えていた状況の中、万博開催を契機にブラジル RS 州との交流の再起動を模索していたところ、RS 州知事が来日したおりに来県いただき、交流再開に向けた意見交換等を実施した。また、令和 7 年度の連携事業の実施に向けた具体的な協議を行うべく、令和 7 年 1 月に本県から交流協議団を派遣した。
F	京都府	チリ、サンティアゴ、ロスアンデス大学附属病院の協力を得てチリの医療の現状と日本の医療の現状を紹介し相互文化交流事業を実施した。また、万博 2025 の関わりについても紹介し万博の機運醸成を図った。
G	大阪府大阪市（ボリビア）	大阪市福島区上福島小学校は、万博を機会とした国際交流を行うことで、万博 SDGs への関心を高める学習を行うため、万博国際交流プログラムへの参加を決定。地域に国際色豊かな飲食店が多く、校内に音楽やダンスを好きな児童が多いことから、食文化や音楽を通じた交流が期待できるボリビアとの交流を希望し、交流を開始。JICA 隊員とのビデオレター交流、ボリビア臨時大使を招聘した講演会やボリビア人アーティストによる音楽会、地元野菜を使ったボリビア料理の開発を行い、最後に、今年度の発表の場として、区長や大使を招いたボリビアデーを開催。万博期間中の会場内の交流実現に繋げた。
H	大阪府大阪市（ブラジル）	大阪市大正区三軒家東小学校は、万博を機会とした国際交流を行うことで、万博 SDGs への関心を高める学習を行うため、万博国際交流プログラムへの参加を決定。校内でサッカーが好きな児童が多いことで、身近に感じる国との音楽や遊びを通じた交流を期待できることからブラジルとの交流を開始。児童同士の交流を主流に考え、三重県にあるブラジル人学校との交流を図るために、日本やブラジルのダンスを介したビデオレター交流や、アレグリア校の児童を三軒家東小学校に招き、サッカーやアニメを活用した交流を実

No	自治体名	実施概要
		施。最後に、今年度の発表の場として、区長や大使を招いたブラジルデーを開催。アレグリア校とオンラインでクイズ大会を開催する等、万博期間中の会場内の交流実現に向けた交流の礎を築いた。
I	大阪府大阪市（ペルー）	大阪市西淀川区出来島地域は、外国籍の方が多い地域であり、同じ国同士のコミュニティが形成されているが、地域住民や他の国籍同士の交流は希薄である。そのため万博国際交流プログラムを活用して、地域と他の国籍同士の繋がりを深めるために、西淀川区で在住者が一番多いペルーを相手国とした交流を開始。ペルー人と日本人が交互に出演する音楽イベント開催。音楽だけでなく、地元の飲食店、企業の出展も行い、食と文化の交流を図った。また、ペルー総領事からのお祝いのレターやペルー紹介動画を提供いただく等、ペルーと日本の絆を PR する場を会場内に設けて、万博への機運を高めた。
J	鳥取県	大阪・関西万博にジャマイカが正式に参加することをきっかけに、姉妹締結しているジャマイカ・ウェストモアランド県との国際交流を再開。万博期間中に、ジャマイカの青少年団が来日することから、実務協議を行うためにジャマイカを訪問。兼ねてから提案のあった、リトルロンドン高校との姉妹港締結を行うなど、青少年を中心とした交流に弾みをつけた。また、万博への機運を高めるために、県内での音楽コンサートや、駐日ジャマイカ大使館と連携して写真展を開催した。
K	広島県北広島町	東京 2020 大会時に柔道選手の事前合宿を受け入れたことをきっかけに、ドミニカ共和国との交流が始まり、東京大会終了後も継続した交流が行われていた。万博を契機に更なる交流として、子どもを対象にした交流をした。小学生を対象にした、友好親善交流イベントや、ドミニカ共和国の生徒 5 名を北広島町に招聘し、リアルな交流を実施した。大人も対象にした講演会等、幅広く町民を交えた交流を実施した。
L	香川県	南米日系社会の歴史と現状について知識を深めるとともに、県人会の若い会員との交流を通じて、今後継続的な交流を続けられる関係を構築するため、県内大学生等をブラジルに派遣し、現地の関係団体を訪問した。また、現地

No	自治体名	実施概要
		で万博及び香川県に関するプレゼンテーションを実施し、万博に関する関心を高めるとともに、県人会員や日本に興味を持つ方に香川県の魅力について知ってもらった。
M	大分県竹田市	パラグアイ共和国サン・ロレンソ市とは、昭和48年（1973年）10月28日に姉妹都市締結。昨年、締結50周年を迎えたが、世界的なコロナウイルス感染症拡大により交流ができなくなり、周年記念事業等が実施できなかった。万博開催を機に竹田市で脈々と継承されている日本文化（能文化・喜多流）を紹介し、毎年秋に開催している「竹田薪能」（ https://taketa-takiginoh.jp/ ）などの文化紹介をはじめ、両市交流の礎といたく、万博国際交流プログラムに参加。2024年1月にパラグアイを渡航する計画を進めていたが、9月に竹田市議会にて、国費を使ってパラグアイに渡航することが承認されず、今年度の渡航事業実施を断念した。一方で、来年度の交流事業参加を見据えて、引き続きパラグアイ共和国サン・ロレンソ市との大阪・関西万博を機会とした交流再開を目指す。

2. 事業の成果概要

事業の成果概要として、実施結果に対する評価に係る項目について分析結果を記載する。各自治体の成果に関する詳細は第3章2.各調査対象プロジェクトにまとめている。

事業の成果概要

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
東京都渋谷区	・ 姉妹都市締結年度に、青少年交流を実施し区内で発表する機会を設けたことで、多くの区民に告知できた	・ 姉妹都市ミラフローレス区で、青少年同士が交流し、両都市の未来を担う青少年同士の相互理解を深める機会を創出できた	・ ミラフローレス区と多く対話する機会があったことで、お互いの信頼関係が構築され、新たな連携の可能性が創出された	・ 両区が国際都市としてさらなる成熟を遂げられるよう、今後も多方面に渡る事業連携を通じて対話を重ねたい
富山県南砺市	・ 地元の文化活動（市民バンド・小学校クラブ活動・音楽祭）に対して充実した国際交流機会を提供することができた	・ 小学生や市民に対して、万博をきっかけとした国際交流の意義を伝えることができた	・ 地元市民との交流機会を多く設けることで、相手国からの日本・南砺市に対する興味関心を高めることができた	・ 現地文化活動とのコラボレーションによって、子どもから大人まで、国際交流への理解を深めることができると同時に、活動の活性化が期待される
福井県	・ 福井県立大学の学生を派遣したことで、特に若い世代に対して良い情報提供の機会となった	・ 現地訪問を踏まえたフィードバックの機会を学生向け、県民向けに実施することで多くのメディアに取り上げ	・ 現地日系人に対して日本や福井県にルーツと触れ合う機会を提供することができ、興味関心を高めること	・ 本機会をきっかけに県立大学・現地村・県人会の三者協定を結ぶことができ、今後の継続的な交流に大

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
		られ、イベント参加者だけでなく、パネル展閲覧者、視聴者等に対して広く万博や相手国との交流を周知することができた	ができた	いに貢献している
三重県	・ 万博会期中の相互交流について、ブラジル側・三重県側の双方にとってよりよい交流となるよう、調整を進めていくことを確認できた	・ ブラジル側・受け入れ側の双方で万博テーマに関する関心を高められたことで、万博についての効果的な周知を行うことができた。	・ 三重県及び日本そのものに対する興味・関心が高まったことで、万博会期中のみならず、今後の長期的な関係構築が期待される。	・ 万博を一過性のイベントではなく持続可能な地域発展の契機として活用することで、三重県の国際化と地域活性化に長期的に寄与するレガシーの創造につながったと考えられる。
滋賀県	・ 往来が途絶えていた RS 州との対面交流を再開できた	・ ブラジルのパピリオンの運営に携わる Apex Brasil とつながることができ、令和 7 年度に万博会場での交流イベント実施への道筋をつけることができた	・ 万博に参加するブラジル企業による滋賀県内企業の視察・マッチング等を図り、経済交流の促進が期待される	・ 滋賀県と RS 州のこれまで紡いできた友好の絆というレガシーを未来へ引き継ぐことが期待される
京都府	・ 府民公開講座の実施により多	・ 大学間の国際交流や大腸癌	・ イベントにはチリ医師および学	・ チリとの交流が一層深まったの

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
	多くの京都府民の来場が得られた	の現状、検診の啓発、内視鏡の進歩や重要性、さらには万博事業の広報を多くの参加者に伝えることができた	生の招聘を行うことで相手国への波及効果を高めることができた	で、今後も交流を深めて最終的にはチリでの大腸癌検診の導入を達成したい
大阪府 大阪市 (ボリビア)	・ 国際交流による学びを通して、ボリビアと日本の文化や言語の違いに興味・関心が高まり、多文化理解が深まった	・ 5年生を中心にした取組により、音楽、食、言語等、五感を活用してボリビアを深く学ぶことができ、充実した国際学習の発表（ボリビアデー）に繋がった	・ ボリビア大使には2回来校いただき交流を深めることができたことで、万博会場のボリビアパビリオンにて行われるイベントに、大使から招待いただくことに繋がった	・ 5年生から4年生へ国際交流の学びをバトンタッチすることで、引き続き、ボリビア大使館と協力しながら国際交流の継続が期待される
大阪府 大阪市 (ブラジル)	・ 国際交流による学びを通して、大阪の良さを見つめなおすとともに、ブラジルとの文化や言語の違いに興味・関心が高まった	・ 三軒家東小学校の全学年が、音楽やスポーツ、言語を通して、ブラジルへの関心、海外へ関心が高まり、万博への期待に繋がった	・ ブラジル人学校のアレグリア校においても、日本の学校を知る機会となり、今後の交流継続への意欲が見られた	・ 学校内に国際交流担当者を配置することで、万博開催後も、アレグリア校とのオンライン交流の継続が期待される
大阪府 大阪市 (ペルー)	・ ペルー共和国のことを広く区民に知っていたく機会になり、	・ ペルー共和国の文化（音楽・踊り・飲食物・雑貨）を	・ ペルー領事館、ペルー大使館とのつながりも出来、万博に向	・ 地域コミュニティの絆が強まり、長期的な地域の発展につなが

自治体名	調査対象自治体内への波及効果	実施により達成できた成果	相手国への波及効果	大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与
	万博への機運も高まった	広く知っていた だく機会となった	けて交流人口の拡大が望める	ると示唆される
鳥取県	・ 音楽交流や姉妹校締結等を通して、交流再開を広く県民に広報することができ、県内の機運熟成を図ることができた	・ 県民のジャマイカ文化、多文化共生社会への理解を促進することができた	・ 鳥取県と姉妹提携していることや、姉妹校締結について、ジャマイカ全国紙のウェブ版に掲載されて広く告知できた	・ 県内高校生のジャマイカ文化体験や姉妹校締結を通して、異文化への理解を促進するとともに、草の根レベルで青少年交流を継続したい
広島県北広島町	・ ドミニカから学生を招聘し、リアルで同年代同士の交流が出来たことで、ドミニカとの関係性が深まった	・ 小学生、中高生、大人を対象した交流を実施できたことで、幅広い町民が国際交流を体験することができ、万博への興味関心を得ることができた	・ ドミニカ共和国を訪問し、関係者と意見交換できたことで、来年度以降、継続した交流に繋がった	・ 万博関係者を北広島町に招くことで、リアルな文化交流や学生を対象にした交流が今後期待できる
香川県	・ 派遣事業によって若い世代同士での交流が生まれ、それが県人会活動の活性化につながることを確認することができた	・ 香川県の現状や魅力、大阪・関西万博について多くの方に知っていただくことができた	・ 日本や香川に対する関心を高め、今後、彼らが県人会活動に積極参加するきっかけになった	・ 日伯双方の若者同士のつながりを作ることができたので、香川県とブラジル香川県人会との関係強化に寄与することが期待される

3. 他自治体への普及・展開方策

(1) 交流事業の計画策定及び実施にあたっての過程の評価

国際交流プログラムの計画策定及び実施にあたっての過程の評価は、以下のような流れで行うことが効果的である。

1) プログラムの方向性決定と計画策定

翌年度実施予定のプログラムを決定し、具体的事業の要請や企画を集める。この段階で、国際交流担当部署と産業振興担当部署が連携して計画の構想を行う。過去の実績、社会情勢、国際的な動向を考慮しながら、プログラムの方向性を定める。

2) 事前評価の実施

各種案件（プロジェクト）の要請、申請及び企画について、必要性・有効性・効率性等の事前評価を行う。この評価では、プロジェクトの目的が組織の方針や社会のニーズに合致しているか、期待される効果が十分であるか、コストに見合う成果が見込めるかななどを多角的に検討する。

3) プロジェクトの選定と実施計画の策定

事前評価の結果と予算を考慮の上、実施する案件（プロジェクト）を決定する。この際、単に評価点の高いものを選ぶだけでなく、プログラム全体のバランスや長期的な戦略も考慮に入れる。

4) 官民連携による実施体制の構築

計画策定段階から地元事業者や関連機関を体制に加える。例えば、産業振興担当部署や市内事業者を早期から参画させることで、より包括的な交流事業を実現できる。また、京都府の事例のように、大学等の専門機関との連携も効果的である。

5) コーディネーターの活用

コーディネーターの活用を検討する。特に国際交流に経験が浅い自治体では、外国に関する専門家、交流イベント等の企画専門家、教育交流の専門家などをコーディネーターとして起用することが望ましい。

通訳や現地案内だけでなく、包括的なファシリテーション業務を行うスキルを有するコーディネーターを活用することで、プロジェクトの成果を高めることが可能となる。

6) 事後評価データの収集

プロジェクト実施後、事後評価のためのデータを収集する。参加者数や満足度といった定量的なデータだけでなく、参加者の感想や現地メディアの反応など、定性的な情報も幅広く集める。

7) プロジェクトの事後評価

実施担当部署による各プロジェクトの事後評価を行う。ここでは、当初の目的がどの程度達成されたか、予想外の効果や課題はなかったかなどを詳細に分析する。

8) プログラム全体の自己評価

毎年度終了時、各プロジェクト評価結果を踏まえて、実施担当部署によるプログラム自己評価を実施する。個別のプロジェクト評価を総合し、プログラム全体としての成果や課題を明らかにする。

9) 外部専門家による評価と改善

外部専門家による評価を実施する。内部評価だけでは気づきにくい点や、専門的な見地からの助言を得ることで、評価の客観性と質を高める。これにより、プログラムの持続可能性と効果をさらに高めることができる。

(2) 事業の達成に向けた調査対象自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制

国際交流を円滑に実施し、事業を成功に導くためには、適切な人材の確保と効果的な実施体制の構築が不可欠である。以下、調査対象自治体の事例を基に、効果的な実施体制について述べる。

1) 国際交流員の活用

国際交流員（CIR）は、自治体の国際交流推進において重要な役割を果たしている。

例えば、国際交流員が交流プログラムの企画から相手国との調整まで幅広く活躍し、人的ネットワークの構築に貢献した事例がある。国際交流員は高い語学力を活かした通訳・翻訳業務を行い、母国の文化や習慣に関する知識を活かして交流プログラムを企画する。

また、母国のキーパーソンや国際交流関係機関とのネットワークを構築することで、事業の成功に寄与する。

滋賀県、香川県、三重県の事例からも、国際交流員が通訳や交流業務で重要な役割を果たしていることが分かる。特に三重県の事例では、国際交流員が両国の学生間のコミュニケーションを促進する役割も担っており、事業の成功に不可欠な存在であることが示されている。

2) 地域の国際交流団体との連携

香川県の事例では、ブラジル香川県人会との継続的な交流が重要視されている。このような地域の国際交流団体との連携は、現地での協力体制の構築や継続的な交流関係の維持に役立つ。また、地域に根ざした国際交流の推進にも寄与する。

3) 自治体間の連携

複数の自治体が連携して事業を実施することで、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）の共有化による効率的な事業運営が可能になる。また、ノウハウの共有によって事業推進力が向上し、広報手段の拡充により広報力が強化される。さらに、リスク分散による事業の継続性向上が期待できる。

ただし、連携にはデメリットもあるため、オンラインでの定期的な会合の開催や情報共有のためのプラットフォームの構築が必要である。これにより、意思決定に時間がかかるという問題を解消し、スムーズな連携が可能になる。

これらの実施体制を適切に構築することで、国際交流事業の効果的な推進と持続可能な発展が期待できる。

4) 既存の文化イベント・文化関係者の活用

各地域では、芸術祭や音楽祭、コンサートホールや美術館もしくは市民等の主導によるア

ートプロジェクトなど、地域振興を目的とした多くの文化活動・イベントが行われている。これらの既存の文化活動は地域に根ざしているものも多く、より効果的な国際交流施策を実施するために活用できる。

例えば、アートイベントにおける海外アーティストの招致や共同制作ワークショップの開催は、参加者が異なる文化背景を持つ人々と直接交流する機会を提供する。また、芸術祭や音楽祭では、異なる国のパフォーマンスや作品、音楽を楽しむことを通じて、自然に異文化理解が深まる場を作り出すことが可能になる。

さらに、中間支援組織であるアーツカウンシルなどの専門機関を活用するのも有効である。アーツカウンシルは、文化・芸術に関わるプロジェクトの企画・運営支援を行うためのネットワークとノウハウを持っており、地域の文化イベントにおける国際交流の拡充に大いに貢献することが期待される。具体的には、アーツカウンシルとの連携により、広範な参加者を募るイベントのプロモーション活動や、長期的な交流プロジェクトの企画・実施が可能となる。

(3) 万博閉会後の事業継続性（相手国との関係性の評価）

2025 年大阪・関西万博を契機とした国際交流プログラムは、単なる一過性のイベントではなく、長期的な関係構築の基盤となることが期待されている。調査対象自治体の取り組みから、以下の継続性確保のための重要な要素が浮かび上がる。

1) 次世代を中心とした交流の推進

子どもを中心とする国際交流の取り組みは、将来的な関係性の構築に重要な役割を果たす。これにより、若い世代から国際的な視野を育み、相手国への関心を長期的に維持することが可能となる。

2) 教育機関との連携

三重県の事例では、県内ブラジル人学校と連携し、万博会場への訪問や万博関係者との交流を計画している。さらに、万博終了後も継続的な交流を予定しており、教育を通じた持続的な関係構築が図られている。

3) 専門分野での協力関係の構築

京都府の事例では、チリのロスアンデス大学や保健省との交流を通じて、大腸癌に関する国際共同研究や学生への講義を計画している。このような専門的な協力関係は、長期的かつ実質的な交流の基盤となり得る。

4) 文化交流の促進

滋賀県の事例では、ブラジルのパビリオンで RS 州と日本、ブラジルのお茶文化等の紹介・体験イベントを計画している。文化交流は相互理解を深め、持続的な関係構築に寄与する。

5) 多様な関係者の巻き込み

学校関係者、保護者、一般市民など、幅広い層を交流事業に巻き込むことで、地域全体で国際交流の意義を共有し、継続的な取り組みへの支持基盤を形成することができる。

6) 定期的な交流機会の創出

京都府の例にあるように、双方に行き来する交流を継続的に行うことで、関係性を維持・強化することができる。

7) 万博のレガシーの活用

三重県の事例では、万博終了後も日本国際博覧会協会の協力を得て講演会を行う予定である。万博で構築されたネットワークや知見を活用することで、事業の継続性を高めることができる。

第3章. 成果のとりまとめ

1. 関西ウォーカーへの記事掲載

(1) 実施概要

第2章「調査対象プロジェクトの実施結果」をもとに、各調査対象自治体の取組内容について、情報発信 WEB サイトに記載することで、万国際交流プログラムの内容及び地域活性化につながる効果等を、国民やマスコミ等、多くの方に発信する。

具体的には、以下の情報サイトに掲載する。

1) Walker plus (ウォーカープラス) 全国版ポータルサイト

全国のおでかけスポット&イベント情報、地域のトレンドニュースを発信している WEB 情報サイト。

20代～40代のユーザーが多く、月間1億3000万PV・約2000万UU(※月間最大値)規模のサイト。

https://www.walkerplus.com/article_list/

2) 関西満喫 Walker サイト

大阪・関西万博のニュースやトピック等の特集記事を主に掲載している WEB 情報サイト。

<https://theme.walkerplus.com/kansaimankitsu/>

(2) 各自治体の掲載記事

1) 東京都渋谷区 <https://www.walkerplus.com/article/1252118/>

【記事抜粋】

【万博国際交流プログラムレポート／中南米編03】東京都渋谷区とペルー共和国の交流の様子 いよいよ2025年4月12日(日)に開催される「2025年日本国際博覧会」(通称「大阪・関西万博」)に近づくにつれ、国際万博の開催を前に、そこに参加する国や地域との相互理解や国際交流を目的として、地域の国際化や活性化を図る取り組みを万博国際交流プログラム「万博国際交流プログラム」が実施されている。 日本の自治体では、国際化促進と交流相手国の万博開催準備や出展準備との交流事業を通じて、万博の推進や交流の促進を図るための国際交流を行っている。そこで、この記事では「万博国際交流プログラム」を活用した自治体による、一地区と他地区との国際交流の様子をレポート。今回は、東京都渋谷区の取り組みを紹介する。 東京都渋谷区とペルー共和国のつながり 渋谷区は、国際に親しいペルー共和国(以下「ペルー」)の大企業が多く集まっていることに加え、2024年8月にペルーの首都リマ市と姉妹都市提携を締結。多様な分野で	ペルーへの学生派遣 2025年2月12日～27日の10日間、ペルー及びミラフローレス区に対する知見と交流を深め、グローバルな視点で活躍できる若少年の育成を目的に、渋谷区在住の大学生4名をペルーへ派遣。今回の派遣では、姉妹都市であるミラフローレス区が手配してくれた訪問先や、クスコ、マチュピチュ、ペルー人観光客をはじめとした多くの施設を訪ね、そのなかで、ペルーと日本の繋がりを、さらに深く知ることになる人たちの旅の始まりがスタート。 
---	---

【記事抜粋】

トリニダード・トバゴのアーティストによる技術指導と交流

【記事抜粋】

サンパウロで福井県をPR！ 「ミニ福井祭り」

【記事抜粋】

体験民宿に泊まり三重の歴史文化を体験

5) 滋賀県 <https://www.walkerplus.com/article/1251875/>

【記事抜粋】

【万博国際交流プログラムレポート／中南米編06】 滋賀県とブラジル リオグランデスール州の交流の様子 いよいよ2025年4月13日(日)に開催が迫る「2025年日本国際博覧会」(通称・大阪・関西万博)。この大阪・関西万博の開催を前に、そこに参加する国や地域との相互理解や国際交流を通じて、地域課題解決や活性化を図る取り組みを内閣府が主催する「万博国際交流プログラム」が実施されている。	RS州知事の来県受け入れ 2024年11月18日に、RS州知事が滋賀県を訪れ、友好交流に関する覚書の締結や万博のPRをはじめ、琵琶湖を遊覧するリオグランデ号に乗った際に船内で市民と交流したり、同様の遊覧の取り組みを紹介したりした。このことは、地元紙だけでなく国内大手新聞社の記事、さらには現地メディアでも取り上げられた。 
---	--

6) 京都府 <https://www.walkerplus.com/article/1251964/>

【記事抜粋】

【万博国際交流プログラムレポート／中南米編01】 京都府とチリの交流の様子 いよいよ2025年4月13日(日)に開催が迫る「2025年日本国際博覧会」(通称・大阪・関西万博)。この大阪・関西万博の開催を前に、そこに参加する国や地域との相互理解や国際交流を通じて、地域課題解決や活性化を図る取り組みを内閣府が主催する「万博国際交流プログラム」が実施されている。	京都府とチリのつながり 京都府立医科大学は京都府と強力な連携のもとで府内唯一の医療系の創設者として質の高い医療を提供している。また、教育・研究の面でも優秀な人材育成のために国際化をテーマの一つに掲げ、2024年3月にチリの首都サンティアゴにあるロスアンデス大学と、学生・教員の国際交流のための協定締結を行っている。実は、チリの国名は伊勢神宮など日本と異なり、大抵の国名については発音された際の半数以上はスラングという特徴的な状況であるという。 そういったチリの状況を加えてロスアンデス大学と京都府立医科大学の協定を土壌に、京都府との連携、在日チリ共和国大使、在日日本大使の協力も得ながら、大阪・関西万博に向けて、チリの医療、医療、文化、音楽などの情報共有を図り、さらに交流を深めていくこととなる。 
--	---

7) 大阪府大阪市（ペルー） <https://www.walkerplus.com/article/1251009/>

【記事抜粋】

【万博国際交流プログラムレポート／中南米編02】 大阪市西淀川区とペルー共和国の交流の様子 いよいよ2025年4月13日(日)に開催が迫る「2025年日本国際博覧会」(通称・大阪・関西万博)。この大阪・関西万博の開催を前に、そこに参加する国や地域との相互理解や国際交流を通じて、地域課題解決や活性化を図る取り組みを内閣府が主催する「万博国際交流プログラム」が実施されている。 日本の海外地域は、地域住民などと交流する国の万博開催や出身者と交流事業を通じて、万博の理念や国際交流への理解を深めるための事前学習を行っている。そこで、この記事では、「万博国際交流プログラム」を活用した自治体による、中米諸国との交流事業をレポート。今回は、大阪府大阪市西淀川区の取り組みを紹介する。 地域のペルー国籍の方々と交流イベントを実施 大阪市西淀川区では、2024年11月3日に、地域のペルー共和国(以下「ペルー」)国籍の方との交流イベント「ペルー文化祭」を開催。会場は、地域の大船出川(注)周辺。ステージでの多彩な国際的音楽、さまざまなダンスの演出により、お祭りに参加する。	それぞれの文化が楽しめるステージ ステージでは、出来島神社とペルーとの関わり、ペルーのダンス、音楽、歌などは、古くからペルーの文化の根幹を成す。地元の方のエイサー、フラダンス、中学校のダンスクラブによるダンスなど、さまざまな演出が行われた。  大阪市西淀川区とペルー共和国の交流の様子
---	--

【記事抜粋】

【記事抜粋】

【記事抜粋】

(3) 掲載結果

掲載期間：2025 年 3 月 17 日～順次掲載

事業に参加した学校長より、このように情報 WEB サイトにて取り組み内容を取り上げていただけることは大変喜ばしいとの声を頂いた。各自治体において、万博国際交流プログラム事業の紹介資料や広報活動として今後活用していく。

2. 各調査対象プロジェクト

A. 東京都渋谷区

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

渋谷区は、区内に駐日ペルー共和国大使館が置かれていることに端を発し、2024年6月にペルー共和国リマ市ミラフローレス区との姉妹都市提携を締結。多様な分野での事業連携を通じて互いの優れた取り組みを共有するとともに、幅広い年齢層の国際交流を促進することにより、国際都市として共に発展する関係を構築することを目指している。

2) プロジェクトの目的

万博国際交流プログラムを契機とした渋谷区民とペルー共和国関係者との交流等を通じて、相手国の新たな視点を取り込んで、今後のさらなる姉妹都市交流の促進へとつなげることを目的とする。

(2) 事業内容

1) 万博紹介出前講座とペルー料理給食交流

渋谷区立広尾小学校の全校児童を対象に、万博プロデューサー中島さち子氏より大阪・関西万博についての紹介、ペルー大使館職員より大阪・関西万博のペルーパビリオンについての紹介を受けた。その後、一緒にペルー料理の給食をいただいた。

【日程】令和6年11月26日(火) 11:30～13:00



【中島氏の登壇】



【中島氏と広尾小学校生徒の給食交流】



【講座全体風景】



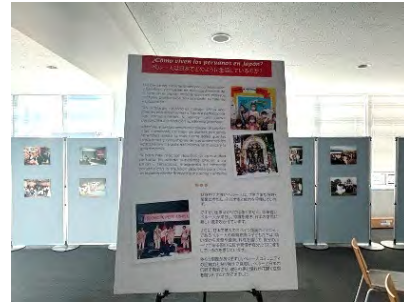
【提供された給食】

2) 「回顧」在日ペルー人社会の35年ー環（還）流する人びとーインカの壮大な道路網写真展
 渋谷区役所 15 階のスペース 428 にて、「ペルー人日本移住 35 年の歴史を振り返る写真展」と「インカの壮大な道路網を探索する写真展」の 2 つの写真展を開催した。

【日程】令和 6 年 12 月 20 日（金）～12 月 25 日（水） 6 日間



【全体風景】



【展示パネル】



【周知ポスター】



【展示写真一例（インカ道の写真）】

3) ペルー共和国学生派遣

ペルー共和国及びミラフローレス区に対する知見と交流を深め、グローバルな視点で活躍できる青少年人材を育成することを目的として、ペルー共和国に、渋谷区在住の大学生 4 名を派遣した。

【日程】令和 7 年 2 月 12 日（水）～2 月 21 日（金） 10 日間



【ミラフローレス区表敬訪問】



【JICA ペルー支部訪問】



【ペルー日系人協会訪問】



【ミラフローレス区での発表会】

4) 渋谷区ハチ公大学での報告会

渋谷区の生涯活躍ネットワーク「シブカツ！」にて運営しているハチ公大学※内の講座で帰国後報告会を実施した。（※渋谷区内の 60 歳以上を対象として、生涯活躍を考える・探すきっかけとして、新たな学びの機会を提供する区民大学）

【日程】令和 7 年 3 月 5 日（水） 15:00～16:00



【発表風景①】



【発表風景②】



【発表風景③】



【発表風景④】

5) 広尾小学校での報告会

渋谷区に所在し、在日ペルー大使館の側にある広尾小学校の授業一コマの時間で帰国後報告特別授業を実施した。（学生が関心を持てるようなクイズ形式を用いた体験型授業も実施）

【日程】令和7年3月7日（金）10:40～11:25



【授業風景①】



【授業風景②】



【授業風景③】



【授業風景④】

(3) 実施に至った経緯

令和6年6月26日にペルー共和国リマ市ミラフローレス区と姉妹都市提携を締結したことを機に、ミラフローレス区と渋谷区の交流の機会を創出するために、令和6年度本プログラムへの申請を行った。

(4) 実施スケジュール

R6.11.26	広尾小学校 万博紹介出前講座とペルー料理給食交流
R6.12.20～25	「回顧」在日ペルー人社会の35年－環（還）流する人びと－写真展 インカの壮大な道路網写真展
R6.12.6	ペルー共和国学生派遣 第1回事前研修
R7.1.14	ペルー共和国学生派遣 第2回事前研修
R7.2.10	ペルー共和国学生派遣 第3回事前研修、区長激励会
R7.2.12～21	ペルー共和国学生派遣
R7.3.5	ペルー共和国学生派遣 事後研修、区長報告、ハチ公大学報告会
R7.3.7	ペルー共和国学生派遣 広尾小学校報告会

(5) 実施体制

- ・ 万博出前講座

主催：渋谷区、渋谷区教育委員会

協力：在京ペルー大使館

委託：株式会社 steAm（万博プロデューサー中島さち子氏）

- ・ 写真展

主催：在京ペルー共和国総領事館主催

共催：渋谷区

- ・ ペルー共和国学生派遣

主催：渋谷区

協力：ミラフローレス区、在京ペルー大使館、在ペルー日本大使館、JICAペルー、JFペルー、APJリマ、APJクスコ

委託：(株)東武トップツアーズ

(6) プロジェクトの目標に対する成果

- ・ 渋谷区では、令和6年6月26日にペルー共和国リマ市ミラフローレス区と姉妹都市提携を締結し、幅広い年代層での国際交流を促進することを目指していたが、区民同士の具体的な交流計画の目途は立っていなかった。その中で本プロジェクトに採択していただき、青少年同士の交流の機会を創出し、国際都市として共に発展する関係をスタートすることができた。
- ・ 本プロジェクトを通して、姉妹都市であるミラフローレス区とのさらなる交流や事業連携を進めることで、万博参加国であるペルー共和国の魅力を多くの区民に周知することができた。また、渋谷

区在住の青少年がペルー共和国及び姉妹都市であるミラフローレス区で、現地の青少年と交流し、両都市の未来を担う青少年同士の相互理解を深める機会を創出することができた。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

このプロジェクトを進める中で、渋谷区とミラフローレス区とで多くの対話の機会があった。その中で、お互いの信頼関係が構築されたり、新たな連携の可能性が生まれたりということがあった。本プロジェクトを経て強くなったお互いの信頼関係を礎として、両区が国際都市としてさらなる成熟を遂げられるよう、今後も多方面に渡る事業連携を通じて対話を重ねていきたい。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- プロジェクトを実施したことで、渋谷区民がペルー共和国や姉妹都市であるミラフローレス区の人々について知る機会を多数創出することができた。
- 青少年同士の交流を通じて、両区の信頼関係の礎を築くことができた。
- 実際に現地を訪れた学生の報告を複数の場で行うことで、より多くの区民に現地の様子を知らせることができた。
- 派遣学生が各々学習テーマを設定して渡航したので、いろいろな角度からペルーやミラフローレス区を掘り下げて見ることができ、そこで得た視点を他の渋谷区民にも共有することができた。
- 本プロジェクトの実現を目指して、ペルー共和国、ミラフローレス区、両国大使館、両国政府機関等、たくさんの方と対話する機会があり、多方面に渡る繋がりを得ることができ、今後の交流や事業連携の土台作りをすることができた。

2) 苦労した点

- ミラフローレス区の姉妹都市担当者は英語があまり通じないため、スペイン語と日本語でのやり取りに苦労することがあった。
- 現地との調整を行うにあたり、オンラインでの打ち合わせが役立ったが、時差が大きく、打ち合わせ日を設定するのに苦労した。
- 社会情勢による航空券の値段変動が読みづらく、何人くらい学生を連れていくかなどの目途を立てるのが難しかった。
- 応募してくれた学生全員をペルーに連れていくことができないので、選考しなくてはならず、公平な選考のために時間と労力がかかった。
- 学生をペルーに連れていくにあたり、長時間フライト、時差、治安面、体力面など、気を遣うことが多くあった。

(9) 今後の課題

今後、本プロジェクトを展開するにあたり想定される課題のひとつとしては、さらなる事業連携や交流を推進するための区民からの理解が得られるかどうかあげられる。今回のプロジェクトで得た成果をなるべく多くの方に知っていただき、今後のさらなる事業展開への理解を得られるようにしたい。具体的には、派遣学生による報告会や、区民のひろばでの報告、ＨＰなどを通じた報告を行ってきたい。

もう一つの課題として予算の問題があげられる。万博交流プロジェクトとしての事業が終わった後にも、引き続き本プロジェクトを展開していけるように、様々な機会を捉えていきたい。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

万博を通じたペルー共和国と渋谷区との交流をさらに深めるために、万博のペルーナショナルデーへの参画と、万博期間中のミラフローレス区への再度の学生派遣を予定している。

(万博閉会后)

今回の万博国際交流プログラムを通じて得た姉妹都市間、両国間の信頼関係をもとに、さらなる事業連携へとつなげていきたい。記念公園の設置や、スタートアップ分野での連携などについて、対話を深め、実現に向けて協力していきたい。

また、今回のような機会をとらえて、なるべく区民同士が交流できる機会を創出し続けて行けるように工夫したい。

(11) 持続的に展開するための工夫

本プロジェクトを持続的に展開していくために、プロジェクトの意義を区民のみなさんに理解していただくよう、今後多様な場面で成果を発信していきたい。

また、渋谷区とペルー共和国、ミラフローレス区は地球の反対に位置し、地理的にとても遠く離れているが、その距離の大きさを超えられるように、今後も様々な機会を捉えて、こまめな連携を継続していきたい。

B. 富山県南砺市

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

本プロジェクトは、大阪・関西万博を契機として国際交流を促進し、地域の文化的多様性を高めることを目的に実施した。特に南砺市は、長きにわたり国際的な音楽交流（南砺市では、過去30年以上に渡り、SUKIYAKI MEETS THE WORLD をしている。<https://sukiyakifes.jp/>）を推進している。しかしながら、音楽交流は合併前の旧町の一部でのみ行われていること、アーティストの招請に多額の費用を要することなどの課題があったため、地域全体における異文化理解の促進、教育的価値の提供、音楽を通じた国際交流の活性化を推進するため、本プロジェクトに取り組んだ。

2) プロジェクトの目的

本プロジェクトは、以下の目的を達成することを目指し、企画・実施した。

- ・地域の子どもたちに、南砺市の歴史文化に誇りをもってもらい、トリニダード・トバゴをはじめとする世界の郷土・文化に興味を持ってもらう。
- ・子どもたちに万博への興味・関心、万博に関わることへの関心を持ってもらう。
- ・市民参加型フェスティバル「SUKIYAKI MEETS THE WORLD2024」と連携し、地域住民と海外アーティストの交流を促進。

(2) 事業内容

1) 初心者向けスチールパンワークショップ

内容：主に市内在住の中学生以上のメンバーで構成されるバンド（SUKIYAKI STEELORCHESTRA、以下「SSO」という。）による初心者向けワークショップを実施。大阪・関西万博やスチールパン発祥の国、トリニダード・トバゴの音楽や歴史、文化やパートごとのスチールパンの種類について学び、楽曲「ロマンス」の演奏に挑戦した。

日程：令和6年7月13日 19:00～21:00、14日 10:00～12:00、14:00～16:00

参加者数：延べ36人（3回の合計）

場所：パンヤード（SSO 定期練習場）



SSO による指導の様子

2) トリニダード・トバゴのアーティストによる技術指導・交流

内容：スチールパン発祥の地、トリニダード・トバゴの国内トップチーム「レネゲイズ・スチール・オーケストラ（以下「レネゲイズ」という。）から、リーダー及び若手演奏家2名の計3名を招請し、SSO 及び気分はカリビアン（市内小学校のスチールパンクラブ）への演奏・作曲指導を実施した。また、レネゲイズのメンバーが地域の夏祭りに参加したり、世界遺産をはじめとする南砺市の歴史や文化に触れたり、地域との交流も実施した。

日程：令和6年8月1日～12日（気分はカリビアン）

令和6年8月1日～12日（SSO）

令和6年8月10日～11日（気分はカリビアン・SSO 合同）

参加者数：延べ189人（気分はカリビアン、7回の合計）

延べ250人（SSO、10回の合計）

延べ114人（合同練習、2回の合計）

場所：パンヤード、福野小学校、福野文化創造センターヘリオス



気分はカリビアンへの指導の様子



SSO への指導の様子



SSO・気分はカリビアン合同練習の様子



レネゲイズと市民の交流（地元祭りへの参加）

3) KURAGE BAND x SUKIYAKI STEEL ORCHESTRA 世界の音楽協奏ワークショップ

内容：ピアノ、韓国打楽器（ケンガリ）、セネガルの太鼓（タマ）、チベットの弦楽器（ダニエン）など、世界各国のさまざまな楽器とその国の文化について、気分はカリビアンおよび SSO に紹介した。また気分はカリビアンや SSO の楽曲に合わせて KURAGE BAND が演奏し、世界各国の楽器による協奏を実施した。

日程：令和 6 年 8 月 7 日～8 月 8 日

参加人数：52 人（気分はカリビアン 27 名+SSO25 名）

場所：福野小学校、パンヤード



各国の楽器の紹介（韓国・ケンガリ）



KURAGE BAND と気分はカリビ안의セッション

4) SUKIYAKI MEETS THE WORLD2024 への参加

内容：KURAGE BAND による前夜祭オープニングステージ、SSO との協奏、フェスティバル出演者及び地域住民とともに市街地パレードを行った。また、SSO と気分はカリビアンによるレネゲイズからの指導会成果発表演奏を実施した。

日程：令和 6 年 8 月 23 日～8 月 24 日

参加人数：1000 人（オープニングステージ）

3500 人（気分はカリビアン成果発表 in 市街地パレード）

900 人（SSO 成果発表 in ヘリオスステージ）

場所：南砺市内（イベント会場、JR 城端線福野駅から福野文化創造センターヘリオス周辺）



KURAGE BAND×SSO



ステージ パレードへの参加



オープニングでの万博 PR

5) KURAGE BAND 世界の音楽協奏ワークショップ

内容：世界各国の楽器（トリニダード・トバゴのスティールパン、韓国のチャンゴ、チベットのダニエン、セネガルのタマ）について、その国の文化とともに児童に紹介。クイズ形式で児童に考えさせたり、各楽器の演奏に合わせて歌ったり踊ったりするなどして、steAm 教育を意識した形で実施した。

日程：令和 7 年 1 月 24 日

参加人数：109 人（福光中部小学校 5 年生 57 人、上平小学校全校児童 52 人）

場 所：福光中部小学校、上平小学校



KURAGE BAND による、世界各国の楽器紹介
（福光中部小学校）



中島氏による大阪・関西万博の説明
（上平小学校）

(3) 実施に至った経緯

本プロジェクトは、南砺市の既存の国際交流活動と、2025 大阪・関西万博を活用した文化発信のニーズが合致したことから企画を行った。音楽フェスティバル「SUKIYAKI MEETS THE WORLD」との連携により、地元住民と海外アーティストの交流を促進する形で、既存の国際交流活動の発展が見込める状況にあった。また、万博テーマ事業プロデューサーの中島さち子氏とつながりあった。中島氏はさまざまな国のアーティストで構成されるバンド「KURAGE BAND」を組織しており、中島氏および KURAGE BAND を招請することで、国際交流の促進および大阪・関西万博に対する機運情勢が見込めると考えられるため、実施に至った。

(4) 実施スケジュール

令和 6 年 7 月 13 日～14 日 初心者向けスチールパンワークショップ

令和 6 年 8 月 1 日～13 日 トリニダード・トバゴのアーティストによる技術指導・交流

令和 6 年 8 月 7 日～8 日 福野小学校 学校訪問ワークショップ

令和 6 年 8 月 23 日～24 日 SUKIYAKI MEETS THE WORLD2024 への参加 (KURAGE BAND)

令和 7 年 1 月 24 日 福光中部小学校・上平小学校 学校訪問ワークショップ

(5) 実施体制

南砺市：内閣官房 国際交流プログラムの受託自治体

株式会社 steAm：学校交流ワークショップの企画・運営、SUKIYAKI MEETS THE WORLD2024 への参加

一般社団法人スキヤキ・オフィス：SUKIYAKI MEETS THE WORLD2024 企画・運営、レネゲイズの招請にかかる各種調整

(6) プロジェクトの目標に対する成果

- ・地域住民や子どもたちが異文化音楽を体験し、国際交流への関心が高まった。
- ・SUKIYAKI MEETS THE WORLD を通じ、南砺市と海外アーティストのネットワークが強化された。
- ・市内のスチールパン奏者の技術が向上し、よりレベルの高い演奏ができるようになった。
- ・交流相手国の方に日本の文化を知っていただくことができた。
- ・文化的なレガシーとして、地域の音楽活動に新たな影響を与えた。
- ・2025 大阪・関西万博関連イベントで南砺市の地域文化を発信できる可能性が高まった。

（７） 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

本プロジェクトは、万博後も地域に根付く国際音楽交流の仕組みを、既存のものからさらに発展、深化させることができた。トリニダード・トバゴからのトップアーティスト招請についてはしばらくできていなかったため、今回招請できたことによって地域同士のネットワークが構築され、今後も定期的に南砺市とトリニダード・トバゴを行き来することが期待される。

また、2025 大阪・関西万博関連イベントでのスティーλπ演奏や、南砺市伝統芸能「こきりこ」の披露に道筋をつけるなど、地域文化の発信にも大きく貢献している。

今後もこの交流を継続し、持続可能な文化活動として発展させることが期待される。

（８） 特に良かった点、苦労した点

１）良かった点

- ・ 音楽を通じた国際交流の場が広がり、地域全体が活気づいた。
- ・ 地域の子どもたちに、世界の音楽に触れ、体験できる機会を提供できた。
- ・ 2025 大阪・関西万博関連イベントでのスティーλπ演奏や、南砺市伝統芸能「こきりこ」の披露に道筋をつけることができた。

２）苦労した点

- ・ 様々な国のアーティストを招聘するため、旅費交通費などの費用を要すること。
- ・ イベント運営における多文化対応（言語対応等）。
- ・ 教育機関とのワークショップ実施の際に、既存の学校カリキュラムとの調整が必要な点

（９） 今後の課題

継続的な国際音楽・文化交流のための資金の確保が必要である。

地域住民のさらなる参加促進がいる。

（10） 今後の展開内容

（万博期間中）

- ・ トリニダード・トバゴ音楽家と SSO を中心とした市民国際文化交流
- ・ 中島さち子プロデューサーや KURAGE Band メンバーの一部が南砺市内の学校訪問
- ・ 南砺市の文化発信（大阪・関西万博関連イベント等での南砺市伝統芸能「こきりこ」の披露）
- ・ SUKIYAKI MEETS THE WORLD（フェスティバル）に KURAGE Bands 出演

（万博閉会后）

- 国際音楽フェスティバルとの連携強化
- 南砺市の関連企業や各種団体との連携（地域イベントの企画 等）

（11） 持続的に展開するための工夫

- 地域と国際的な音楽団体とのパートナーシップ強化
- 小中学校における国際音楽教育の継続的な実施
- 音楽、文化、芸術活動等に活用できる補助制度や事業支援の検討
- 本プロジェクトを通じて得られた知見を活かし、南砺市の国際交流を発展させていきたい。

C. 福井県

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

ブラジルには、サンパウロ州サンミゲールアルカンジ市にある福井県が開拓地建設を進めたコロニア・ピニャール（通称「福井村」。1962 年に、福井県から第一陣が入植）や、福井県からの移住者やゆかりの人びとの県人会組織である「ブラジル福井県文化協会」があり、いずれの周年行事にも県や県議会、農協等から現地を訪問するほか、福井村や県人会からも役員等が折々に来県するなどの交流を続けてきた。

年月の経過とともに、移住者世代も福井県側で交流を担ってきた人々（友好協会役員等）も高齢化が進んでおり、今後とも両国間の交流を継承・発展させていくためには、若者世代の交流を活発化していくことが喫緊の重要課題となっている。また、福井県内には4,504人（R6年「福井県内外国人住民数の概況」）と、国籍別では第1位となる多数のブラジル人がいて、将来的に労働力としての定着が期待されている。

2) プロジェクトの目的

本プロジェクトを通して、福井県とブラジルとの交流活発化とともに万博および福井県のPRを一層推進する。

(2) 事業内容

1) 在サンパウロ日本国総領事と懇談

ブラジルの万博担当省庁である貿易振興庁の担当者との面談の調整を行うも、日程が合わなかった。福井県副知事がブラジル訪問時に、在サンパウロ日本国総領事と懇談し、万博時のブラジルと福井県の交流計画について報告

日時：令和6年8月30日（金）午前



2) ブラジル福井村出身者を福井県立大学へ招いての講座

日本人の移住の歴史や福井村の歴史や暮らしなどを紹介

日時：令和6年12月5日 9:00~10:30

場所：福井県立大学

講師：国際経済課 [REDACTED] [REDACTED] (元福井村日本語学校教師)

福井村出身者 3名

[REDACTED]



3) 福井県立大学で「環境」をテーマにした専門家による講座

万博ブラジル館のテーマ「環境」について、ブラジルアマゾンの先住民の暮らしから今の環境問題について考える講義を実施

日時：令和6年12月19日 9:00~10:30

場所：福井県立大学

講師：下郷 さとみ/フリージャーナリスト

内容：“里山”の視点で見つめるアマゾン熱帯林



4) 福井県立大学生のブラジル訪問

① ジャパンハウス・サンパウロでの福井県 PR 「ミニ福井まつり」

サンパウロのジャパンハウスにおいて、ブラジル福井県人会のみなさんと一緒に、「ミニ福井まつり」を開催し、県大生による福井県や万博 P R、福井の伝統工芸（越前和紙、越前焼）のワークショップを実施

日時：令和6年9月21日 13:00-17:00

場所：ジャパンハウス・サンパウロ



② 福井村の若者との交流

福井村の日本語学校生徒への福井県立大学生からの福井紹介
福井村に関するかるたづくり

日時：令和6年9月23日 午後

場所：福井村 コロニア・ピニャール日本語モデル校





③福井郷土料理 体験交流

福井村の日本語学校の生徒や親と一緒に福井の郷土料理（ソースかつ丼、打ち豆の味噌汁、麩の辛子和え、水ようかん）の調理実習を行い、試食

日時：令和6年9月24日 午前

場所：福井村 会館

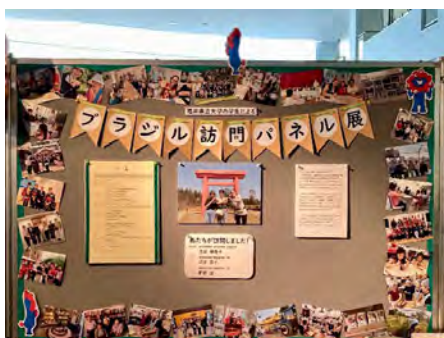


④成果報告 ブラジル訪問パネル展

ブラジルを訪問した福井県立大学の学生 3 名による、ジャパンハウス サンパウロでの「ミニ福井まつり」や福井村での交流の様子を紹介

期間：令和6年12月7日（土）～14日（土）

場所：福井県国際交流会館



5) 福井県立大学・福井村・福井県人会の三者協定を締結

教育研究分野で連携を深めるため、三者が包括連携協定を締結した。

日時：令和6年9月1日 午前

場所：福井村 コロニア・ピニャール日本語モデル校

6) 環境をテーマにしたシンポジウムの開催

ブラジルの環境問題に取り組む専門家を福井に招き、「持続的な世界のためにわたしたちができること」を考えるためのシンポジウムを実施。専門家による講演会の他、ブラジルを訪問した福井県立大学の学生によるブラジル訪問の結果報告、万博の周知も行った。

期間：令和6年12月14日(土) 13:30~16:20

場所：福井県国際交流会館



(3) 実施に至った経緯

移住者世代も福井県側で交流を担ってきた人々（友好協会役員等）も高齢化が進んでおり、今後とも両国間の交流を継承・発展させていくためには、若者世代の交流を活性化していくことが喫緊の重要課題となっていたため。また、福井県内には4,504人（R6年「福井県内外国人住民数の概況」）と、国籍別では第1位となる多数のブラジル人がいて、将来的に労働力としての定着が期待されていたため行われた。

(4) 実施スケジュール

上記参照

(5) 実施体制

福井県 : 事業統括

福井県立大学 : 学生指導、講演会講師との調整

ブラジル福井県文化協会（ブラジル福井県人会） : ブラジルでのイベント調整

コロニア・ピニャール文化体育協会（福井村） : 福井村でのイベント調整

(6) プロジェクトの目標に対する成果

福井県とブラジルの福井県人会、福井村とのつながりが希薄化していることが課題であったが、今回の万博交流プログラムを通じて、実際に若者同士が交流をすることで、両国間のつながりを継承・発展させるための基盤が強化された。

福井県内で行った事業の参加者がブラジルについて学び深く知る機会につながったのはもちろんのこと、実際に参加していなくてもそれを取り上げた様々なメディアを目にすることで、ブラジルに対する県民の興味関心を高める絶好の機会となった。

一方、ブラジルでも福井の PR イベント「ミニ福井まつり」の参加者からは、約 98%の人が福井県への興味が高まったという結果が出て、外務省の SNS でも取り上げられるなど、福井県の PR や福井とブラジルのつながりについての関心が高まった。

福井県立大学での講座への参加者（計 180 名）、シンポジウム出席者（約 50 名）であり計 200 名を超える参加があったことから、目標より多くの県民に参加いただいた。

ブラジルでの福井県や万博の周知について、SNS で約 4,000 件の発信を見込んでいたが、ブラジル国内では SNS のアカウントを非公開にする方が多いとのことで、件数を数えることは難しかった。しかし、ブラジルでの「ミニ福井まつり」の参加者による 120 件以上の投稿、また下記の公式アカウントでも投稿されたことから、当初の目標は達成の見込み。

○ブラジル日報（ブラジル最大の邦字新聞）インスタ、FB フォロワー総計 1.1 万人

○在サンパウロ日本国総領事館インスタ、FB 43.4 万人

○外務省 X、FB、インスタ 62.3 万人

ブラジルの県人会や福井村の若者と福井県立大学の学生との交流を通じて、交流前に不安点で挙がっていた言葉の壁は大きな問題とはならず、やはり現地での生の交流により、双方の理解につながることを確認できた。交流した若者同士は、帰国後も SNS でつながるなど、課題であった「若者同士の交流」の裾野が広がるきっかけとなった。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今回、ブラジルの県人会や福井村、そして福井県の若者が共同でイベントを開催するなど、相互の交流のきっかけをつくることができた。今後は、その交流を持続的に進めていくために、定期的に相互交流が

できる仕組みを考えていきたい。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

ブラジルで協力していただく県人会や福井村の方々とは、福井県としてこれまで周年事業などで訪問することがあっても、一緒に何かの企画を実施するということはなかった。同じ「若者同士の交流を行いたい」という目標はあっても、ブラジル側がどれくらいこの事業に協力していただけるかがわからなかった。しかし、今回の事業に県人会や福井村の全面的な協力を得ることができ、現地では想像を超えて充実した交流を実施することができた。今回の事業を通して、互いにより深い信頼関係を築くことができ、今後の協力体制が強化された。

若者が実際にブラジルへ行き、現地の方と交流し、文化や歴史に触れることで、国際的な視野を広げることができると同時に、福井県内にいる多くのブラジルの方に対する理解が深まり、今後福井県内における多文化共生につなげることができた。

サンパウロのジャパンハウスでの「ミニ福井まつり」を実施し、福井県の文化や観光地、工芸などがブラジルの方々に刺さるコンテンツであることを実感できた。

2) 苦労した点

ブラジルと日本の時差が 12 時間であるため、オンラインで打ちあわせをするにもどちらかが早朝、または仕事後の夜の時間になってしまうこと、メールでのやり取りは翻訳プログラムを利用したが細かい部分でなかなか意思疎通ができなかったことが挙げられる。

事前の打ち合わせで詰め切れなかったことは、現地での打ち合わせとなったが、会場で打ち合わせする時間も短く、本番当日に変更となることもあった。

万博をどのように PR すればいいのかが十分わからず、HP を見ても情報が得られないことがあった。万博全体の情報を予めいただきたかった。

(9) 今後の課題

課題の解決策としては、SNS を積極的に活用し、日常的に情報共有を行いながらコミュニケーションを図ることが挙げられる。交流の持続性に関しては、(10) に記す。

1) 時間の制約（時差や行き来の時間）

日本とブラジルの時差は 12 時間であるため、オンラインでの交流が難しい。ブラジルはほかの国に比べて距離があるため、福井からサンパウロへ行くために片道約 2 日かかる。何度も行き来することができない。

2) 金銭的な負担

距離があるため、航空券などの渡航費が多額である。

ブラジルは、外務省の海外安全情報で危険度 1 となっており、治安が悪い地域であるため海外に慣れていない若者が一人で自由に行動できない。そのため、渡航の際には安全な移動手段や

宿泊施設を確保しなければならないため経費が掛かる。

3) 交流の継続

上記の理由から、交流が一過性になる懸念もある。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

- ・ブラジル館の関係者を福井県に招聘し、研究者と交流する。
- ・福井村の太鼓部が来日し、ブラジルで根付いた和太鼓の魅力を発信するとともに、福井県を訪れ、福井県立大学生とともに福井県内の観光地や最先端技術を使った農場などを視察。
- ・福井村の日本語学校と県内の小学校が共通テーマ「万博」で作品を制作する。

(万博閉会后)

- ・福井県立大学生がブラジルを訪問して交流を継続するための仕組みを考える。

(11) 持続的に展開するための工夫

持続的に交流を推進するために下記について検討する。

①20～30代：ブラジルからの研修生の、福井の若者との交流や SNS での発信

ブラジル福井県人会を通じて、福井県ではブラジルの若者が県内の企業等で半年ほどの研修を受ける事業を行っている。これまで、この研修において、研修先の人達との交流はあるが、研修先以外の人との交流の機会はなかなかなかった。 今後は研修先だけではなく、研修生と年齢の近い若者との交流の機会を設け、さまざまな人と交流できる仕組みを作りたい。

また、交流の様子や観光地を SNS で発信してもらうことによって、福井県の魅力をブラジルでも発信してもらう。

②大学生：福井県立大学の定期的な学生派遣

学生が異文化を理解する広い視野を身につけ、コミュニケーション能力を高めるため、福井県立大学で、令和6年9月に締結した包括連携協定に基づき、今後定期的に学生をブラジルへ派遣することを検討する。現地での文化交流や共同プロジェクトを通じて、双方の若者が実践的な学びを得ることができる。

③小学生～高校生以下：作品交換での交流

福井村の日本語学校の生徒（幼稚園～高校生）と福井県内の小学校での作品交換を行う。時差がありオンラインでの交流が難しく、また SNS にも触れていない低学年がいることから、書道や図工作品の交換による交流を行う。お互いの作品をととして、日本文化や相手の生活、もののとらえ方の違いなどを学ぶ。

D. 三重県

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

三重県では、県内産業において自動車、電子機器などの製造業の割合が高く、ブラジルをはじめとする日系3世までの外国人住民の就業先の多くがこれら産業となっていることもあり、ブラジル人の在留数全国3位（2024年6月末時点）であり、共生社会の構築が重要な取組となっている。

他方で、大都市圏に比べて国際交流の機会が限られた状況にあるという課題を抱えている。このため、万博国際交流プログラムを活用し、ブラジル（サンパウロ州）との友好深化を進めることで、青少年の相互理解促進や県内若者の国際的な視野の拡大を目指す。

2) プロジェクトの目的

ブラジルにて、日本語教育や日本文化理解の推進に取り組む大志万学院が、日本の生活様式や伝統文化を学ぶため、隔年で訪日教育旅行を実施しており、令和6年12月から令和7年1月にかけて、生徒と引率教員を含む52名が、三重県を行程に含む訪日教育旅行を企画している。この機会を捉え、同校と県内学校との交流、農林漁業体験民宿での体験を交えて、三重県の歴史文化等の魅力を紹介する。

(2) 事業内容

青少年の相互理解促進、県内若者の国際的な視野の拡大を目指すため、以下の取組を行った。

【日程】令和7年1月15日（水）～1月17日（金） 3日間

【来県人数】52名（学生48名、教員4名）

【交流内容】体験民宿に宿泊し、三重の歴史文化体験を実施（2泊3日）

県内2校（高田中・高等学校、セントヨゼフ女子学園）と交流

みえグローバル学生大使による伊勢神宮（外宮）案内



【大紀町入村式】



【体験民宿での文化体験】



【 和服体験 】



【セントヨゼフ女子学園との交流】



【 式年遷宮せんぐう館訪問 】



【 伊勢神宮（外宮）案内 】

（3）実施に至った経緯

三重県は 1973 年にブラジル・サンパウロ州と姉妹提携を締結し、5 年ごとに代表団派遣等の交流事業を実施している。令和 5 年には、姉妹提携 50 周年を迎え、知事が訪伯し、サンパウロ州政府訪問や、「ブラジル三重県人会創立 80 周年・三重県人移住 110 周年記念式典」へ出席した。大志万学院は、ブラジルにおいて日本語教育の発展と日本文化の普及に貢献したほか、日本の小中学校と提携を結び、教育分野での交流・友好親善の促進に顕著な功績をあげたことから、記念式典において、大志万学院の創設者に三重県海外功労者表彰を授与した。その際、今後の交流促進について意見交換を実施したことがきっかけとなり、交流の実現に至った。

（4）実施スケジュール

- R7.1.15 大紀町農林漁業体験民宿の入村式、各体験民宿での体験
- R7.1.16 高田中・高等学校、セントヨゼフ女子学園との交流
- R7.1.17 みえグローバル学生大使による伊勢神宮（外宮）案内

(5) 実施体制

三重県 : 大志万学院との調整、県内受入先・訪問先への受入れ依頼、広報
大紀町観光協会 : 農林漁業体験民宿の宿泊・体験やイベント実施
高田中・高等学校 : 男子生徒（30名）の受入、交流の実施
セントヨゼフ女子学園 : 女子生徒（18名）の受入、交流の実施
みえグローバル学生大使 : 伊勢神宮（外宮）の案内

(6) プロジェクトの目標に対する成果

1) 大志万学院の生徒の三重の文化理解促進

大紀町農林漁業体験民宿では、入村式、各体験民宿での体験、日本文化体験イベントを通じて、昔ながらの木造建築の家屋など各体験民宿の特色を活かしながら、お米の釜炊き、五右衛門風呂、囲炉裏での食事、野菜の収穫などを体験することで、日本文化に対する理解を促進することができた。

大志万学院の学生からは、「日本の伝統文化を学べて、一生の思い出となった」と発言があり、体験民宿での心温まる体験を通じて、三重県に対して愛着を持ってもらうことができた。アンケートの結果からも、回答者のほとんどが「三重県への興味が（とても）高まった」「三重県の歴史文化への理解が（とても）高まった」としており、目標を達成できたと考える。

2) 三重県内の青少年の国際理解の促進

大志万学院の受入れ側の実績として、高田中・高等学校の生徒 297 人、セントヨゼフ女子学院の生徒 150 人が交流に参加した。授業交流や昼食時間の交流を通じて、スポーツ、音楽の話題等で親交を深めていた。受入側の学校より、「素晴らしい交流ができ、良い学びの機会になった。」とコメントがあった。

また、みえグローバル学生大使の伊勢神宮（外宮）案内では、皇学館高校の 5 名が参加した。「神宮研究」など日頃の学習の成果を活かしながら、大志万学院の学生に伊勢神宮の歴史を紹介した。大志万学院の学生から、ブラジル文化を学ぶなど、相互の理解促進を行うことができた。参加者からは、「とても楽しかったし、貴重な経験になった。また同じような機会があれば参加したい。」とコメントがあった。

3) 2025 大阪・関西万博に対する PR 機運醸成

本取組は、万博を契機としていた国際交流として実施していることを大志万学院及び受け入れ側の 2 校の生徒はじめ大紀町関係者にも理解いただき、万博テーマに関する関心と万博の広報を行うことができた。

大志万学院へのアンケートでは、ほとんどの学生が、「今回の交流で初めて万博を知った人」と回

答していた。また、すべての方が「万博への興味・関心が（とても）高まった」と「万博会場に（とても）行きたい」と回答しており、万博について効果的に周知できたと考えられる。

（7）大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

県内の学生と大志万学院の学生との交流は、若者の国際的視野を広げ、グローバルな課題解決に取り組む人材を育成する基盤となった。

例えば日本人の心のふるさとと言われる伊勢神宮訪問や、農林漁業体験民宿での日本の伝統的な生活様式の体験および民宿オーナーによる温かいおもてなしは、日本人のメンタリティやおもてなし文化を体験する機会となり、文化のみならず精神性の面からも多くの学びが得られたと考えられる。これは、万博が目指す「多様で心豊かな生き方」を体現するモデルともなり、万博後も継続可能な文化交流プログラムとして発展させることができる。

さらに本事業を通じて構築されたネットワークは、万博期間中のブラジル館との交流や、万博後の継続的な国際協力の基盤形成にも寄与している。万博を一過性のイベントではなく持続可能な地域発展の契機として活用することで、三重県の国際化と地域活性化に長期的に寄与するレガシーの創造につながる事業となったと考えられる。

（8）特に良かった点、苦労した点

1)良かった点

農林漁業体験民宿への宿泊体験が、学生たちにとって、三重県の文化を知る素晴らしい体験となり、三重県への愛着を持ってもらえたこと。また学校交流では、大志万学院にとっては日本の授業、学生生活を学ぶ機会となったとともに、日本側の学生にとっても、ブラジルの文化について学ぶ機会となり、相互理解を促進することができた。

2)苦労した点

学生48名という大規模の訪日旅行の受入れは、受入側の学校が体験したことがない規模であり、1校のみでの受入が難しかったことから、2校に受け入れていただいた。その結果、ロジや調整が複雑となった。

（9）今後の課題

- ・ 県内ブラジル人学校の万博会場への招待に向けて、ブラジル人学校側との具体的な人数、スケジュール、引率体制などを調整する必要がある。
- ・ 万博会場での受入体制や、ブラジル館との交流について、具体的な交流内容、交流時期、タイムスケジュールを検討し、ブラジル館側と調整する必要がある。

（10）今後の展開内容

（万博期間中）

県内ブラジル人学校を、万博会場へ招待し、ブラジル館および三重県ブースへの訪問や説明・質問を通じて万博関係者との交流を図る。

（万博閉会后）

県内ブラジル人学校を県万博担当者が訪問し、日本国際博覧会協会の協力を得て、万博に関する講演会を行う。

（11）持続的に展開するための工夫

在名古屋ブラジル総領事館を通じて、ブラジル側の万博担当者とのネットワークを構築した。その結果、万博会期中の相互交流について、ブラジル側・三重県側の双方にとってよりよい交流となるよう、前向きに調整を進めていくことを確認できた。

E. 滋賀県

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

万博の開催される令和 7 年は、日伯友好交流 130 周年であり、また、本県とブラジル リオグランデスール州（以下「RS 州」という。）の姉妹友好提携 45 年の節目を迎える特別な年である。

近年、両県州間では、コロナ禍による渡航制限や RS 州での大水害の発生により往来が途絶えている状況が続いていた。このような状況の中、令和 7 年に開催される万博を大きなチャンスと捉え、RS 州との交流の再起動を図りたく本プロジェクト参加を希望した。

2) プロジェクトの目的

万博開催を契機に、往来が途絶えていた本県と RS 州との交流が再起動し、両県州の魅力を広く発信するとともに、友好の絆というレガシーを未来へつなぐ。

(2) 事業内容

1) RS 州知事来県受入

【日程】令和 6 年 11 月 18 日（月） 1 日間



【友好交流に関する覚書の締結】



【万博開催のPR】



【琵琶湖を遊覧するリオグランデ号船内での県民との交流】



【本県の治水の取組紹介】

2) RS 州への交流協議団派遣

【日程】令和 7 年 1 月 18 日（土）～1 月 25 日（土） 8 日間



【RS州知事表敬訪問】



【Apex Brasilとの意見交換】



【滋賀友の会との意見交換】



【プラッサ滋賀（滋賀公園）の視察】



【イボチ日系人会との意見交換】



【ブラジル滋賀県人会との意見交換】

3) 各メディアによる報道結果（RS州知事来県）

2024年11月18日 NHK NEWS WEB

2024年11月19日 中日新聞

2024年11月19日 産経新聞

2024年11月19日 読売新聞

2024年11月19日 朝日新聞

2024年11月19日 京都新聞

2024年11月19日 日本経済新聞

2024年11月28日 滋賀報知新聞

2024年11月19日-20日 jornal do comércio

2024年11月 Plano Rio Grande Na Tua Mão

RS州政府インスタグラム掲載

(RS州2024年10大ニュースの1つにアジア訪問がエントリーされ、来県時の写真が採用された。)

4) 各メディアによる報道結果（RS州への交流協議団派遣）

2025年2月5日 ブラジル日報

RS州政府インスタグラム

RS州選出の国会議員 Any Ortiz氏のインスタグラム

(3) 実施に至った経緯

コロナ禍以降、往来が途絶えていた状況の中、万博開催を契機にRS州との交流の再起動を模索していたところ、RS州知事が来日したおりに来県いただき、交流再開に向けた意見交換等を実施することとなった。また、令和7年度の連携事業の実施に向けた具体的な協議を行うべく、令和7年1月に本県から交流協議団を派遣することとなった。

(4) 実施スケジュール

R 6.8 : 交流提案書を RS 州へ送付

R 6.9 ~10 : RS 州知事来県にかかる情報収集・調整・準備

R 6.11.18 : RS 州知事来県受入

R 6.12 ~ : 交流協議団派遣に向けた調整・準備

R 7.1.18 ~25 : 交流協議団派遣

(5) 実施体制

以下の団体等が連携して実施した。

滋賀県国際課、滋賀県万博推進室、在ポルトアレグレ領事事務所、滋賀県内ブラジル県民コミュニティ、その他県民等

RS 州経済開発局、Apex Brasil、ポルトアレグレ市、滋賀友の会、ブラジル滋賀県人会等

(6) プロジェクトの目標に対する成果

本プロジェクトへの参加により、RS 州との対面交流を再開できたことに加え、ブラジルのパビリオンの運営に携わる Apex Brasil とつながることができ、令和 7 年度に万博会場での交流イベント実施への道筋をつけることができたという大きな成果を得られた。

11 月の RS 州知事来県時に開催した県民との交流イベント後のアンケート調査からは、「イベントを通じて万博のことを知り、興味関心が高まった」、「相手国に対する興味関心が高まり、万博で相手国のブースへ行ってみたい」、「今後も交流を持ちたい」等、万博やお互いへの関心が高まった人が多数との結果が得られ、双方への波及効果が認められた。

今後は、万博交流イベントの実施、万博を機に来日するブラジル関係者の滋賀県内へのご招待に向けて、RS 州および Apex Brasil と密に連携を図っていく。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博を契機とした交流イベントの開催を通じて、日本とブラジル、滋賀県と RS 州双方の魅力を広く知っていただくとともに、両県州のこれまで紡いできた友好の絆というレガシーを未来へ引き継ぎ、さらに相互協力による成長と発展の機会を創出していく。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- Apex Brasil とつながり、万博での交流イベント実施に向けて、動き出すことができた。
- RS 州との対面交流が再起動し、今後の交流への道筋がついた。
- 県内ブラジル人コミュニティをはじめ、県民と RS 州の方々とが交流の機会を持てた。

2) 苦労した点

- これまで接点のなかった Apex Brasil とのアポイントに向けた調整。
- 時差により、RS 州知事来県にかかる日程や行程の調整、訪伯にかかる関係各所との面会の取り付けに時間を要した。

(9) 今後の課題

ブラジルのパビリオンにて開催する万博交流イベントにおいては、具体的なイベント開催日時・内容についての Apex Brasil および RS 州との細かな連絡調整、実施体制の確保、広報の方法等、課題が想定される。また、ブラジル現地でのイベント開催も予定しており、開催に向けた現地との調整、確実に届く資材の郵送方法の検討等の課題がある。

これらの課題に対しては、Apex Brasil や RS 州政府をはじめ、県内の様々な団体および県民、在伯邦人コミュニティ、在ポルトアレグレ領事事務所等、多方面の方々と密に連携し、協力体制を構築して一つずつ確実に準備を進めていく。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

ブラジルのパビリオンにて、日本とブラジルのお茶文化等の紹介・体験イベントを開催し、本県と RS 州の魅力と友好の絆を広く発信する。また、万博に参加するブラジル企業による滋賀県内企業の視察・マッチング等を図り、経済交流を促進する。

(万博閉会后)

県交流団を派遣し、現地で開催される日本祭り等において、滋賀県の魅力および万博を契機とした交流行事の成果等を広く発信するとともに、現地住民との交流を図る。また、両県州の友好の結晶の一つでもある、滋賀公園の管理関係者との技術交流をはじめとする様々な分野における交流を促進する。

(11) 持続的に展開するための工夫

友好交流を持続的に展開していくために、オンラインでの交流のほか、定期的な人員の派遣や受入を通じて対面交流を継続していくとともに、友好の絆を引き継いでいくために、イベントや事業等への若い世代の参画も呼び掛けていく。

F. 京都府

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

京都府立医科大学では京都府と強力な連携のもとで京都府唯一の政策医療の担い手として府民への質の高い医療を提供している。

また、教育・研究の面でも優秀な人材育成のために国際化をテーマの一つに掲げており、2024 年 3 月にチリ、サンティアゴのロスアンデス大学と学生、医師の国際交流のための協定締結を行ったところ。

現状ではチリの種々の文化や地域の状況については日本ではあまり知られていない状況であり、また、医療面は保険制度など日本と種々異なり、大腸癌においては 10 年間で死亡率が 1.6 倍に増加しているが、全国民対象の検診はなく、発見される大腸癌の半数以上は stage IV の治癒困難な状態である。

2) プロジェクトの目的

これらのチリの状況を踏まえてロスアンデス大学と京都府立医科大学の協定を土台に、京都府との連携、在日チリ共和国大使、在チリ日本大使の協力を仰ぎながら、EXPO2025 大阪・関西万博の開催に向けて本事業によりチリの医療、地理、文化、言語などの情報共有を図る事業を行うことでさらに交流を深めることを目的に事業を行った。

(2) 事業内容

下記の 4 つのイベントを開催し、チリの医療、地理、文化面での交流を図り多くの京都府民の参加を促し、日本の大腸癌が増加していることについても触れ、検診や内視鏡の重要性及び最先端の医療技術などを伝えた。

【日程】

1) 京都府立医科大学オープンキャンパスで本事業を紹介

日程：2024 年 8 月 7 日

事業内容：京都府立医科大学のオープンキャンパスにおいてポスターを学内に掲示し来場者 500 名以上に対して我々が取り組んでいる国際交流、大腸がん検診および万博についての紹介を行った。

2) 府民公開講座：万博 2025 連携 京都・チリ交流公開セミナー「日本とチリの大腸癌診療の最前線」

日程：2024 年 10 月 12 日

事業内容：事前のミーティングとして 10 月 10 日に東京の在日チリ大使館にチリ医師 3 名と京都

府立医科大学夜久学長及び消化器内科の吉田講師の5名が訪問し、今回の府民公開講座「日本とチリの大腸癌診療の最前線」について Ricardo Rojas 大使と本講座の登壇者の Nury Disegni 外交官にあらためて概要を説明した。併せて、その際に今後のチリでの大腸癌検診の啓発について本学とロスアンデス大学とも交流を深めていくことを要請した。

10月12日に京都府立医科大学図書館ホールにおいて府民公開講座「日本とチリの大腸癌診療の最前線」を開催し、チリから3名の医師を招聘し、135名の一般参加者(Webでチリからの参加を含む)に日本とチリの大腸癌検診の現状、最新の大腸癌診療、両国の文化の違い、EXPO2025大阪・関西万博の取り組みについて紹介し、交流を深め、万博の機運醸成を図った。

また、翌日の10月13日の朝に本件公開講座の総評を関係者でディスカッションを行った。

メディア掲載：京都新聞 11月19日朝刊

「大腸がん 日本・チリの診療に学ぶ 働き盛りの検診遅れ 課題」

3) 府民公開講座「日本とチリの大腸癌診療の最前線」 京都府立医科大学トリアス祭

日程：2024年11月2日 京都府立医科大学トリアス祭に合わせて開催

事業内容：京都府立医科大学の文化祭であるトリアス祭において、本学広小路キャンパス看護学舎にてワークショップや大腸癌診療の最前線とチリの文化、EXPO2025大阪・関西万博の紹介を行った。内容としては、チリから1名の医師を招聘し、日本とチリの大腸癌検診の現状、最新の大腸癌診療、両国の文化の違いやEXPO2025大阪・関西万博の取り組みについて紹介し、交流を深めるとともに、万博の機運醸成を図った。(一般参加者30名)

4) 府民公開講座「内視鏡、がん検診のことを知ろう」

日程：2025年2月2日

事業内容：事前イベントを1月28日に京都府立医科大学消化器内科医局において開催し、当日に向けてのシステムエンジニアおよびチリより研修目的に来日中のErik Manríguez医師との相談を行うとともに、チリの大腸癌および文化についての講演を消化器内科の医局員20名に対して行い、交流を行った。また、1月29日には京都府立医科大学附属病院内視鏡室において京都府立医科大学4回生5名との交流や病院内見学による各部署との交流、内視鏡についてのハンズオンセミナーを行い、医局員8名および技師2名とともに内視鏡実技の交流を行った。2月2日に京都府立医科大学附属病院北臨床講義棟において府民公開講座「内視鏡、がん検診のことを知ろう」を開催した。チリから1名の医師を招聘し、また当院研修中のチリ医師1名から日本とチリの大腸癌検診の現状、最新の大腸癌診療、両国の文化の違いやEXPO2025大阪・関西万博の取り組みについて紹介し、さらに、これらのテーマ

に関連した動画を3つ作成し、内容を紹介することで、交流を深め、万博の機運醸成を図った。（一般参加者30名）

各イベントについての写真等は以下の通りである。

京都府立医科大学オープンキャンパスで本事業を紹介



府民公開講座：万博2025連携 京都・チリ交流公開セミナー「日本とチリの大腸癌診療の最前線」

府民公開講座
日本とチリの大腸癌診療の最前線

本講座は2025年4月より開催される大阪・関西万博の支援を受け、そのテーマである「いのちを輝く」に基づいて大腸癌診療の最前線を紹介します。
 また、国際交流として京都府立医科大学はチリのロスアンデス大学と学生・医療交流の協定を結んでおり、両国の大腸癌のがん検診の現状、食生活などの文化の違い、地道が多い共通点、さらには大阪・関西万博についても紹介します。
 みなさまどうぞ奮ってご参加ください。

日時：2024年10月12日(土) 午前9時～11時30分
場所：京都府立医科大学 附属図書館2階 図書館ホール
 (河原町広小路西入るすぐ)

9:00- 開会挨拶 京都府立医科大学 学長 夜久 均 氏

9:20-10:40 日本とチリの大腸癌の検診と診療の現状
講演1: チリの大腸癌診療の最前線
 講演者：ロスアンデス大学 ガンセンター長 フランシスコ・ロベス

講演2: 日本の大腸癌診療の最前線
 講演者：京都府立医科大学 消化器内科 講師 吉田 直久

参加者による討論会
 討論テーマ：日本とチリの市民の大腸がん検診への思い

10:40-11:30 チリと日本の文化と大阪・関西万博の紹介
講演3: チリの文化(ワイン、モアイ、地震を含めて)
 講演者：駐日チリ共和国大使館 貿易駐在員 メリー・ディセンギ

講演4: EXPO2025への京都府の取り組み
 講演者：京都府総合政策環境部大学政策課 参事 関 大輔

講演5: EXPO2025大阪・関西万博の全体の紹介
 講演者：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 広報・プロモーション局地域・観光部長 木嶋 淳

11:30- 閉会挨拶 京都府立医科大学 消化器内科 講師 吉田 直久

参加申込はこちら
 申込みフォームに必要事項をご入力の上、送信してください。
 入場は無料ですが定員は先着100名です。定員となり次第、締め切らせていただきます。
 フォームURL→ <https://forms.gle/TkGvyaBz1KJfwWQ6>
 申込期限：10月10日(木)午後5時まで

会場へのアクセス

主催：京都府、EXPO2025大阪・関西万博、京都府立医科大学 消化器内科 附属図書館内附属図書館政策課
 協力：京都府立医科大学 国際学術交流センター、京都府立医科大学大学院 がんプロフェッショナル養成プラン
 在京チリ大使館、在京チリ大使館



府民公開講座「日本とチリの大腸癌診療の最前線」 京都府立医科大学トリアス祭



TRIAS FESTIVAL

参加
無料

11・2
sat

14:00-16:00

チリってどんな国？
内閣官房万博事業支援イベント

2025年4月より開催される内閣官房万博事業の支援により
協定校のチリのロスアンデス大学とのワークショップを開催します

万博の“いのちを救う”に基づき、大腸癌診療の最前線と
EXPO2025大阪・関西万博について英語および日本語の座談会形式でご紹介します。
また、チリや海外の先生方との交流会の場も設けております。
貴重な機会ですので、みなさま奮ってご参加下さい！

場所/日時 京都府立医科大学 広小路キャンパス
看護学舎 1階大会議室
令和6年11月2日(土) 14:00-16:00

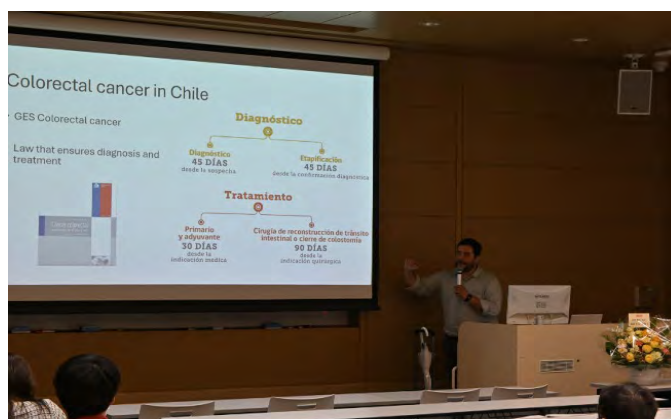
第1部 日本とチリの大腸癌診療の最前線
演者: Diego Marin (ロスアンデス大学 外科)
演者: 吉田 隆久 (京都府立医科大学 消化器内科)
～ Discussion Part ～

第2部 チリの文化と万博紹介
演者: 小谷 夏美 (内閣官房国際博覧会推進本部事務局)
～ Let's talk freely! ～

KISA KIPUM International Student Association
2019年4月に発足した、
KIPUM国際学生交流センター主催の学生団体です。
留学生の文化交流を目的として日々活動しています！
✉ kisa@koto.kpu-m.ac.jp
📷 @kipum_kisa_official

参加には事前申し込みが必要です
こちらから！
<https://forms.gle/boKwKCTFm2DT>

主催：EXPO2025大阪・関西万博、ロスアンデス大学、ロンドン大学、ロンドン大学、ロンドン大学、京都府立医科大学消化器内科、KISA



府民公開講座 内視鏡、がん検診のことを知ろう

本イベントでは、国内外で増加する大腸癌について理解を深めるために、内視鏡や電気メスなどの医療機器を実際に触れていただきながら、内視鏡の進歩やがん検診の現状をご紹介します。さらに、京都府立医科大学消化器内科では海外の施設と交流し、内視鏡技術の普及にも取り組んでいます。2025年に開催される「いのち」をテーマとした万博から国際活動への支援も受けており、海外の大腸癌の現状や万博の最新情報もお伝えします。大人だけでなくお子様にも内視鏡の仕組みを体験いただくよう、企画していますので、ぜひお越しください。

日時: 2025年2月2日(日曜)午後13:00 - 15:00

場所: 京都府立医科大学附属病院 2階 北臨床講義棟

午後13:00-

開会挨拶 京都府立医科大学 呼吸器内科学 教授 高山浩一 先生

午後13:05-14:05

内視鏡機器の進歩とがん検診 (20分)

演者: 京都府立医科大学附属病院

内視鏡室 講師 吉田直久

参加者の内視鏡の操作体験 (40分)

午後14:05-14:30

海外の大腸癌診療の現状 チリの文化の紹介も交えて (15分、日本語字幕)

チリロスアンデス大学 Dr. Felipe Guillén

チリDr. ソテロ・デル・リオ医療総合施設 Dr. Erik Manriquez

参加者からの質問 (10分、同時通訳)

午後14:30-14:55

講演 EXPO2025大阪・関西万博の最新情報の紹介 (15分、web講演)

演者 公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

広報・プロモーション局地域・観光部長 木嶋 淳

参加者からの質問 (10分)

応募方法

下記のフォームもしくは右のバーコードを使って氏名、参加人数をご入力いただきお申込みください。

入場無料で定員は先着30名です。定員となり次第締め切ります。

<https://forms.gle/TBo15rRPbgWmRUB>



共催: 京都府立医科大学がんプロフェッショナル養成センター、同消化器内科、富士フィルム、京都大腸がん検診啓発ランナーズK-Dr.



(3) 実施に至った経緯

京都府立医科大学においてＨＰ等で本事業について認知し、学内で事業の実施について検討の上、設置団体の京都府の所管課である京都府総合政策環境部大学政策課とも協議し、事業を実施することとなった。

(4) 実施スケジュール

2024年8月7日：京都府立医科大学オープンキャンパス

2024年10月12日：府民公開講座 万博2025 連携京都・チリ交流公開セミナー「日本とチリの大腸癌診療の最前線」

2024年11月2日：府民公開講座「日本とチリの大腸癌診療の最前線」

2025年2月2日：府民公開講座「内視鏡、がん検診のことを知ろう」

(5) 実施体制

実施主体：京都府立医科大学 消化器内科

京都府立医科大学 国際学術交流センター

大学内調整担当：京都府立医科大学 企画広報課

京都府・万博等との窓口：京都府総合政策環境部大学政策課

(6) プロジェクトの目標に対する成果

チリのロスアンデス大学と京都府立医科大学と協力しながらイベントを実施したことで、イベントに参加した京都府民およびチリ国民に、京都府立医科大学で取り組んでいるチリのロスアンデス大学との国際交流や大腸癌の現状、検診の啓発、内視鏡の進歩や重要性、大腸がん検診の啓発、大腸癌の現状の把握に寄与することができた。さらには万博事業の広報を多くの参加者に伝えることができた。

相手国であるチリに対しては、イベントの内容をオンラインで配信を行うだけでなく、チリ医師および学生の招聘を行うことで現地への波及効果を高めることができた。

一方で、京都府内の参加者については、実施時期が寒い時期であったこと、病院内での新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、参加者数が期待通りに確保することが出来なかったことが課題である。

今回のテーマに対する社会的な興味がまだまだ十分ではない部分もあることから、これからも継続的に国際交流や大腸癌診療について伝えていきたい。

（7）大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博事業の支援をえてチリとの交流が一層深まったことが成果であり、レガシーとして残していきたい。今後も交流を深めて最終的にはチリでの大腸癌検診の導入を達成したい。

（8）特に良かった点、苦労した点

1) 良い点

- ・ 大腸癌の現状や検診啓発を広く行うことができた。
- ・ チリとの交流が深まり、万博事業についても理解を深めることができた。

2) 苦労した点

- ・ 広報を行ったが参加者の確保に苦労した。
- ・ 現地チリとのやりとりはメールが主でありレスポンスが迅速にえられないこともあり苦労した。
- ・ 経費の処理についても海外とのやりとりのため難しかった。

（9）今後の課題

イベント周知や参加者の確保に課題が予想される。SNS を積極的に活用し、また京都府関連の各部署やイベントでの広報を行いたい。

（10）今後の展開内容

（万博期間中）

万博参加者が多くなるよういくつかのイベントを府民公開講座という形で行いたい。

（万博閉会后）

今回、深まった交流を生かして現地チリに赴き大腸癌検診の導入、内視鏡医の育成などのイベントにつなげていきたい。

（11）持続的に展開するための工夫

チリのロスアンデス大学や保健省、両大使館などの各部署との交流を増進するために双方に行き来する交流を継続する。

また、それ以外にも Zoom などを活用し定期的なミーティングを続けていくことが重要であり実践していく予定である。さらには大学間の大腸癌に関する国際共同研究、学生への講義 などを行うことでより広く交流ができる可能性があり計画之中である。

G. 大阪府大阪市（ボリビア）

（1）背景と目的

1) プロジェクトの背景

大阪府・大阪市では、新たな時代を切り拓くため、住民・企業をはじめ、あらゆるステークホルダーとともに、大阪が持つ豊かな歴史・文化や人々の多様な魅力、都市のポテンシャルを生かし、チャレンジし続けることにより、大阪を元気にし、府民・市民が誇りや愛着を感じることのできる、世界に誇る魅力あふれる都市を作り上げることを目指し、「大阪都市魅力創造戦略 2025」を策定している。

本戦略では、「大阪・関西万博のインパクトを生かした都市魅力の創造・発信」「安全・安心で持続可能な魅力ある都市の実現」「多様な主体が連携し、大阪全体を活性化」の3つの基本的な考え方のもと、10の目指すべき都市像を定め、各施策を推進し、また、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する視点を持って推進している。

10の施策の一つである「出会いが新しい活を生む多様都市」に含まれる「多文化理解の促進」を図るものである。

<https://www.city.osaka.lg.jp/keizaisenryaku/page/0000531412.html>

2) プロジェクトの目的

大阪・関西万博を契機に万博参加国・地域の関係者とお互いの国・地域の文化やSDGsに関する取組について交流することにより、お互いの子どもたちが万博の理念についての理解と関心を深める学習活動を行うことにより、将来的に海外の子どもたちが、大阪・関西と交流した経験を通じて、日本の社会・文化に理解や愛着を持つことで、日本と海外の国々の間における経済的なつながりだけでなく、様々な交流の懸け橋となることが期待できる。

また、大阪・関西の子どもたちには、この国際交流を実施することで、持続可能な社会を担う人材を育成する。

（2）事業内容

1) 大使館関係者による講演と音楽交流会

ボリビア多民族国のナターリャ臨時大使を招いての講演、日本在住のボリビア人アーティストによるボリビアの伝統音楽「フォルクローレ」のスペシャルコンサートを実施。

臨時大使やアーティストと児童が共演するなど、相手国とのつながりを実感することでお互いの国の文化等に関する理解を深めることができた。

【交流内容】

- ・臨時大使と児童との給食交流
- ・ボリビア人アーティストによる歌と踊りの事前学習

- ・臨時大使の講演（図書贈呈）
- ・ボリビア人アーティストによるスペシャルコンサート

【日程】

令和6年11月5日（水）



【臨時大使から上福島小学校の児童へ絵本を贈呈】



【臨時大使による講演】



【アーティストの音楽に合わせてダンスをする児童】



【アーティストと一緒に演奏する児童】

2) JICA 現地派遣隊の協力による現地とのビデオレターの交換や相手国の食文化の学びと料理開発

- ① JICA 関西からボリビアへ現地派遣されている隊員の協力を得て、現地の子どもたち（派遣先のサッカーチーム）を交えたビデオレターの交換を実施。

なお、ビデオレター交換による交流のキックオフとして、JICA の元ボリビアへの派遣隊員を招聘して出前講座を実施、ボリビアの国土、時差、マナー等を事前学習。

- ② 食文化を中心にお互いの国の文化についての学びを深めるため、ボリビア料理をはじめ、世界中の料理に精通する専門家からの講演、地元食材を使ったボリビア料理のレシピ開発など料理体験を実施。

講師 青木 ゆり子氏（料理研究家）

【日 程】

- ① 令和6年9月24日（火）～令和7年2月5日（水）

※令和6年9月24日（火）JICA 関西の元派遣隊員による出前講座を実施

② 令和6年12月18日（水）、19日（木）



【料理専門家による講演の様子】



【ボリビア料理を実演】

3) ボリビアデー（2024 オルロのカーニバル）の開催

臨時大使、アーティスト及び区長を招いて、今年度実施した国際交流プログラムの成果を発表する場としてボリビアデー（イベント）を開催。児童がこれまでに学んできたことを音楽や料理等を通じて披露。大阪・関西万博に向けた機運醸成を図るとともに、万博会期中の会場内での交流の実現、会期後以降の継続的な国際交流の礎を築いた。

【交流内容】

- ・ボリビアデイオープニング（スペイン語での歓迎の言葉、区長あいさつ、万博紹介、音楽とダンス等）
- ・児童の作ったボリビア料理のレシピの実演
- ・ボリビアデイエンジョイイベント（児童のお礼の言葉、お礼の音楽等）
- ・記念撮影

【日程】

令和7年2月5日（水）



【ナターリア臨時大使の挨拶】



【創作したボリビア料理を試食】



【アーティストとともに音楽を楽しむ児童】



【ミyakumiyakと一緒に記念撮影】

(3) 実施に至った経緯

R6.3月 大阪市内の各市立小・中学校へ万博国際交流プログラムへの参加希望校を募集

R6.4月 大阪市立上福島小学校をボリビアとの国際交流の参加校として市教委が認定
(選定理由)

上福島小学校では、令和7年5・6月に万博会場の訪問を予定しており、万博を機会とした国際交流を行うことで、万博SDGsへの関心を高める学習を行うため、プログラムへの参加を決定。

また、地域に国際色豊かな飲食店が多く、校内に音楽やダンスを好きな児童が多いことで、食文化や音楽を通じた交流が期待できるボリビアとの交流を希望していた。

(4) 実施スケジュール

R6.6.3 万博国際交流プログラム事務局を交えたキックオフ MTG

R6.7.25 JICA 関西関係者との MTG

R6.8.1～ 第1回オンライン MTG (以降、随時開催)

R6.9.24 JICA 関西の元派遣隊員による出前講座 (ビデオレター交換開始)

R6.10.8～ ボリビア多民族国大使館を表敬訪問

(市教委・万博推進局から、本プログラムの主旨、来校と講演、万博会期中のパビリオン等での交流の実現について依頼)

R6.11.5～ 大使館関係者による講演と音楽交流会

R6.12.18・19 食文化学習会

R7.2.5 ボリビアデーの開催

(5) 実施体制

- 交流の実施・企画・立案：大阪市立上福島小学校
- 交流の企画・立案の補助：万博国際交流プログラム事務局 (NTT データ経営研究所)

- ・ 交流会の運営・交流先及び大使館対応等：委託事業者（グリーンアップル、八芳園）
- ・ 交流サポート及び関係先との調整：大阪市教育委員会指導部初等・中学校教育担当
- ・ 内閣官房等関係先との調整：大阪府・大阪市万博推進局機運醸成部参加促進課

(6) プロジェクトの目標に対する成果

今回の国際交流プログラムでの経験を通じて、児童のボリビアの社会・文化への関心が高まるとともに、多文化共生社会の実現に向けた理解を深めることに寄与した。

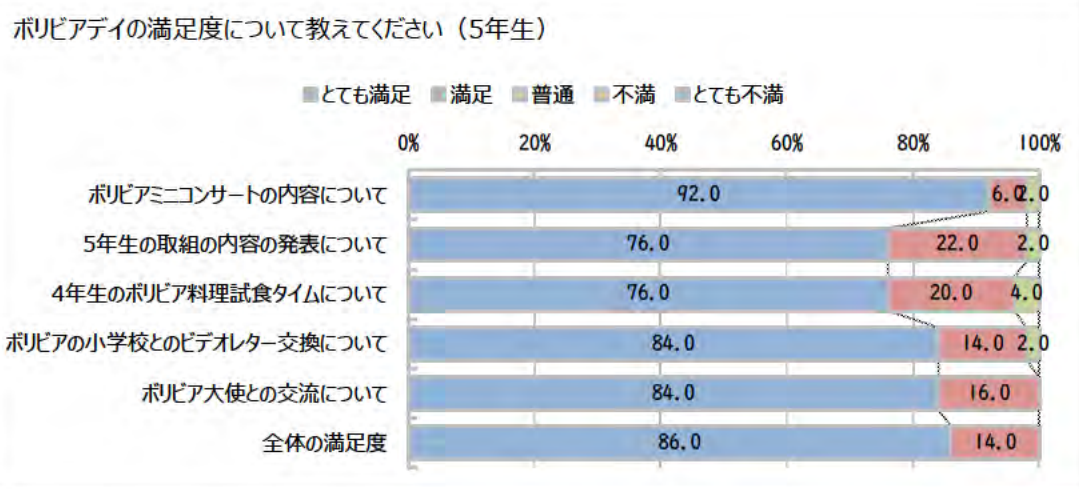
上福島小学校においては、今回の国際交流を通じた学びを通じて、児童たちが日本とボリビアとの関係をはじめ、他国との橋渡し役となる国際的な人材に成長していくことが期待できる。

その他、臨時大使の参加を通じて、ボリビアにおける大阪（福島区）の認知度を高めることができた。

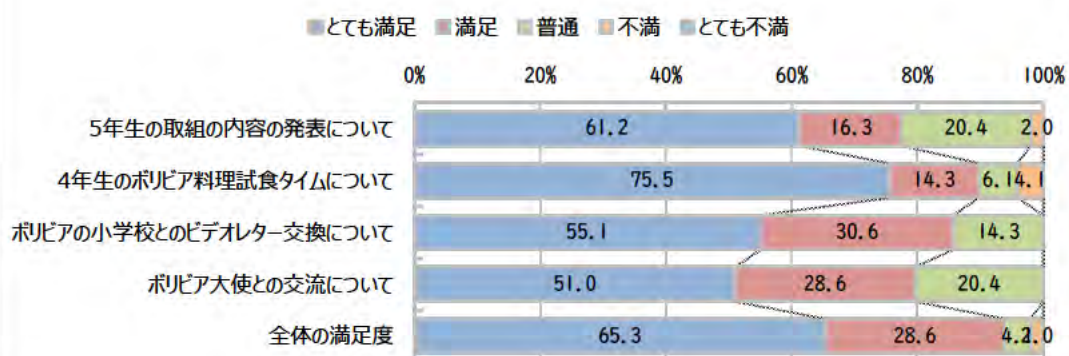
交流計画書に記載した「期待される事業の目標・効果」に対する成果について、上福島小学校児童へのアンケート結果をもとに記載する。

①交流へ参加した児童の満足度

交流を実施した学年の中心である４年生、５年生ともにほとんどの児童が満足と回答

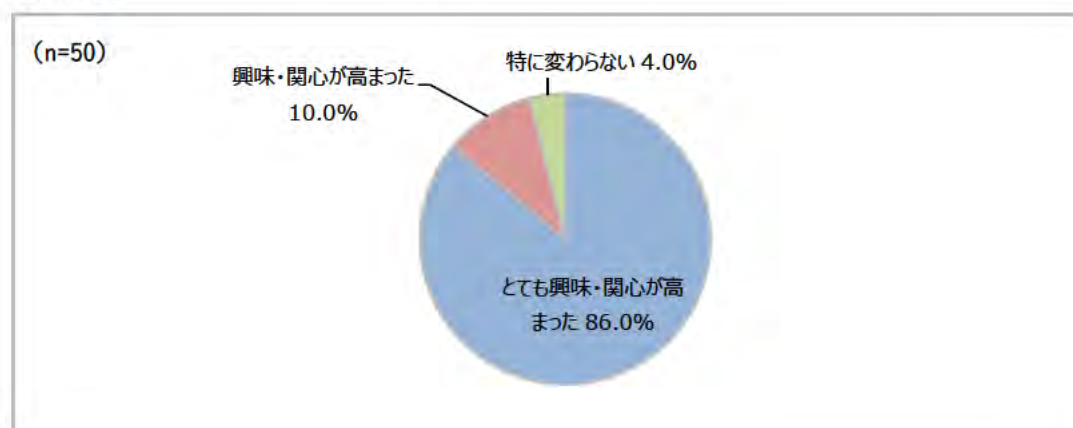


ボリビアデーの満足度について教えてください（4年生）



②交流相手国の理解

ボリビアデーをとおして、ボリビア多民族国に対する興味・関心は高まりましたかという問いに対しては、4年生・5年生ともにほとんどの児童が興味・関心が高まったと回答（5年生）



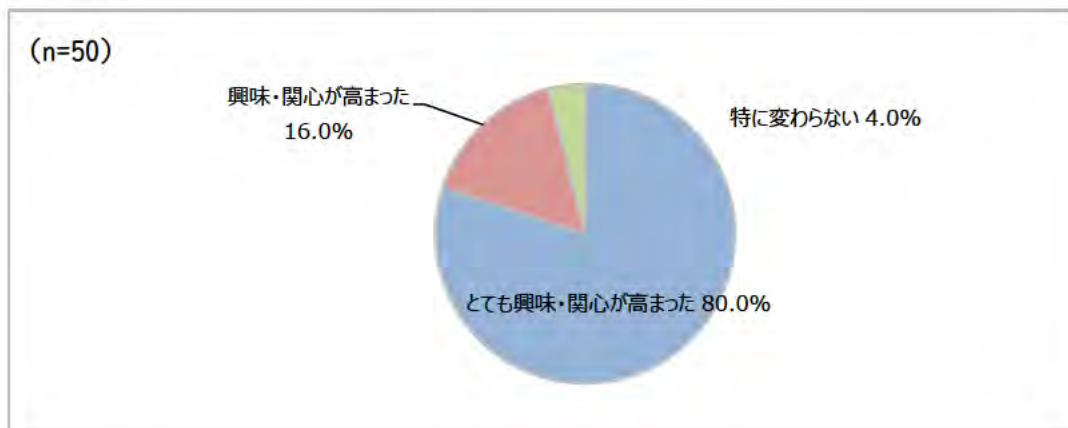
（4年生）



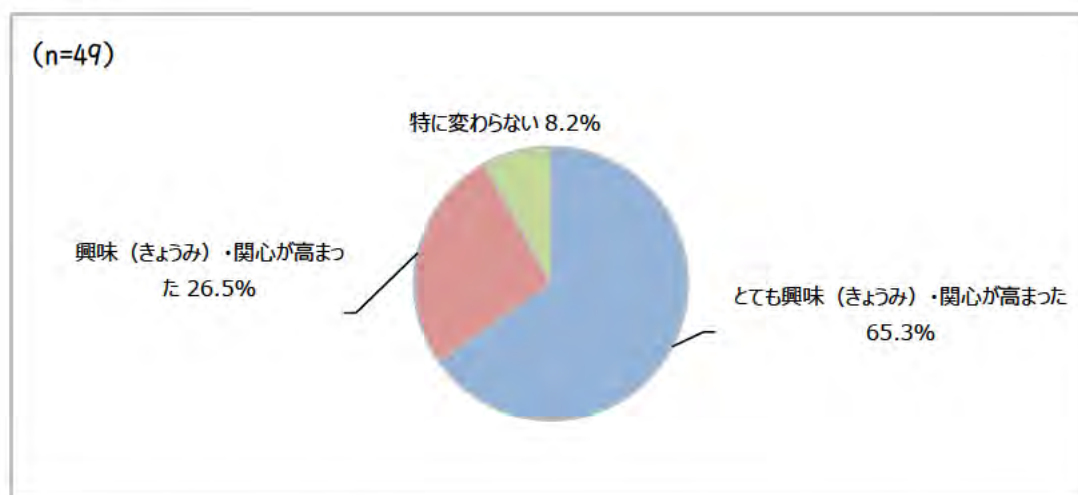
③万博への理解や期待

4年生、5年生のほとんどの児童が万博への興味や関心が高まったと回答

(5年生)



(4年生)



成果が出なかったものについては、交流相手校との交流を希望しており、大使館を通じて交流相手校の紹介について依頼をしていたが、今年度内に交流を実現することができなかった。今後、引き続き、交流相手校の紹介を受け、学校間交流を実現していきたい。

学校間交流の実現については、現地の協力者（JICA 関西の派遣隊員）が、学校への派遣者でないため、交流相手校の紹介に至らなかった点が要因の一つであると考えられる。交流相手校の紹介について、引き続き、大使館を通じた依頼を行うとともに他の実現方法を検討する必要がある。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・ 駐日ボリビア大使館や地元のボリビア料理店等の飲食店との継続的な連携や交流を定着させるこ

とで、上福島小学校を中心として、地域全体の国際交流の取組につなげていく。

- 次年度以降、相手国の小学校との交流を実現させ、万博後も交流を継続し、姉妹校締結をめざしたい。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- 相手国の食文化にふれるだけではなく、自分たちでアレンジし主体的にメニュー開発をするプログラムによって、相手国への関心の深まりと同時に自国の文化のよさにも気づくことができたこと。
- ボリビアデーの開催によって、自分たちのアイデアが生かされたボリビアと日本のコラボ料理が実現するとともに、ボリビアの音楽や現地の児童からのメッセージにも触れ、国際色豊かな交流の経験ができたこと。
- ボリビア多民族国大使館との信頼関係ができた。

2) 苦労した点

- 学校全体で国際交流に取り組むにあたって、学校長のリーダーシップのもと、教職員の共通理解を得ながら、目標に向かって準備や打合せ、調整、児童への指導を実施したこと。
- 学校行事との調整、事前交流に向けた準備・手配、保護者への説明。

(9) 今後の課題

- 交流のコーディネート事業者による継続的な支援がある期間に、将来的に継続できる取組をするための準備や体制づくりを、どのように考えて構築していくのか。
- 大使館等との交流を継続して実施し、万博会期中の会場内での交流を実現したい。
- また、学校間交流の実現※に向けて、引き続き、関係先と相談しながら交流を進めていきたい。
※ 学校間交流が実現し他場合に、将来的に姉妹校締結もめざしていきたい。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

会期中の会場内（パビリオン）でのリアル交流の実現

大使館関係者の地元招聘

(万博閉会后)

ボリビア現地の小学校とのオンライン交流の継続

（11）持続的に展開するための工夫

- 学校の教育目標に国際交流の取組を位置付ける。
- 校内の教職員の業務分担（校務分掌）として、国際交流の担当を位置付ける。
- 地域や関係機関（国際交流センター等）との連携協力体制を構築する。

H. 大阪府大阪市（ブラジル）

（1）背景と目的

1) プロジェクトの背景

大阪府・大阪市では、新たな時代を切り拓くため、住民・企業をはじめ、あらゆるステークホルダーとともに、大阪が持つ豊かな歴史・文化や人々の多様な魅力、都市のポテンシャルを生かし、チャレンジし続けることにより、大阪を元気にし、府民・市民が誇りや愛着を感じることのできる、世界に誇る魅力あふれる都市を作り上げることを目指し、「大阪都市魅力創造戦略 2025」を策定している。

本戦略では、「大阪・関西万博のインパクトを生かした都市魅力の創造・発信」「安全・安心で持続可能な魅力ある都市の実現」「多様な主体が連携し、大阪全体を活性化」の3つの基本的な考え方のもと、10の目指すべき都市像を定め、各施策を推進し、また、持続可能な開発目標（SDGs）の達成に貢献する視点を持って推進している。

10の施策の一つである「出会いが新しい活を生む多様都市」に含まれる「多文化理解の促進」を図るものである。

<https://www.city.osaka.lg.jp/keizaisenryaku/page/0000531412.html>

2) プロジェクトの目的

大阪・関西万博を契機に万博参加国・地域の関係者とお互いの国・地域の文化やSDGsに関する取組について交流することにより、お互いの子どもたちが万博の理念についての理解と関心を深める学習活動を行うことにより、将来的に海外の子どもたちが、大阪・関西と交流した経験を通じて、日本の社会・文化に理解や愛着を持つことで、日本と海外の国々の間における経済的なつながりだけでなく、様々な交流の懸け橋となることが期待できる。

また、大阪・関西の子どもたちには、この国際交流を実施することで、持続可能な社会を担う人材を育成する。

（2）事業内容

1) 文化やスポーツを通じたリアル交流

【日程】

令和6年11月26日（火）

【交流内容】

エスコラ・アレグリア・デ・サベル鈴鹿校（日本に所在するブラジル人学校、以下「アレグリア校」）の児童を招聘し、三軒家東小学校の児童とともに、日本のアニメのフレーズを通して、ポルトガル語を学ぶとともに、サッカーを通じてスポーツ交流を実施

○日本アニメのフレーズをポルトガル語で学ぶ
講師 高橋仁氏を招聘（ポルトガル語学習）



【ブラジルの国や文化・自然を通して、熱心にポルトガル語を学ぶ児童】

○サッカー交流

講師 ラモス氏、岸本武志氏（元ブラジルプロ選手） 他プロサッカー選手数名を招聘
上記のほか、アレグリア校児童と給食交流も実施



【アレグリア校の児童とともに、ラモス氏等とともにサッカーを楽しむ】

2) 日本とブラジルのコラボダンスの創作とビデオレター交換

【日程】

令和6年10月9日（水）、（第1回 オンラインによりプロ講師と練習）

令和6年11月8日（金）（第2回 オンラインによりプロ講師と練習）

令和6年12月11日（水）（オンラインによりプロ講師と本番撮影）

令和7年 1月上旬 ビデオレターを交換

【交流内容】

アレグリア校（日本に所在するブラジル人学校）の児童とオンラインでつないで、お互いの国の文化の理解を深めるため、日本の河内音頭とブラジルのサンバと並ぶ踊り「ブラジリアンズーク」とのコラボダンスを創

作。学校とダンスのプロ講師とをオンラインでつないで創作ダンスを練習し、その模様をビデオレターとして収録、アレグリア校とビデオ交換する。

※三軒家東小学校では、創作ダンスを運動会でも披露
ダンス講師 中島洋二氏（サンバダンサー）他



【ダンスのプロ講師をオンラインでつないで、振り付けを学び、練習する児童】

3) ブラジルデーの開催

【日程】

令和7年3月1日（土）.

【交流内容】

ブラジル大使館のポッジオ参事官、区長を招いて、今年度実施した国際交流プログラムの成果を発表する場としてブラジルデー（イベント）を開催。児童たちによる音楽やダンス等の披露、アレグリア校とのビデオレターを通したクイズ大会など、これまでの交流で学んできたことを披露。

また、大使館による出前授業、区長あいさつ、大阪・関西万博の紹介など、大阪・関西万博に向けた機運醸成を図るとともに、万博会期中の会場内での交流の実現に向けて、会期後以降の継続的な国際交流の礎を築くことができた。

○当日のプログラム

- ・ 区長あいさつ
- ・ 大使館のポッジオ参事官による出前授業
- ・ クイズ大会
- ・ 記念撮影（ミャクミャク登場）
- ・ ダンス交流（アレグリア校のビデオレターと三軒家東小学校の児童によるダンス）

・音楽発表



【チアゴ・ポッジオ参事官による出前授業】



【アレグリア校のビデオレター】



【アレグリア校の映像とともにダンスを披露】



【～サンバ de 河内音頭～】

(3) 実施に至った経緯

令和 6 年 3 月 大阪市内の各市立小・中学校へ万博国際交流プログラムへの参加希望校を募集

令和 6 年 4 月 大阪市立三軒家東小学校をブラジルとの国際交流の参加校として市教委が認定
(選定理由)

三軒家東小学校では、令和 7 年 4 月下旬に万博会場の訪問を予定しており、万博を機会とした国際交流を行うことで、万博や SDGs への関心を高める学習を行うため、プログラムへの参加を決定。また、校内でサッカーを好きな児童が多いことで、身近に感じる国との音楽や遊びを通じた交流が期待できることからブラジルとの交流を希望していた。

(4) 実施スケジュール

R6.6.3 万博国際交流プログラム事務局を交えたキックオフ MTG

R6.7.29 第 1 回オンライン MTG (以降、随時開催)

R6.9.24 在日本ブラジル大使館を表敬訪問

(市教委・万博推進局から、本プログラムの主旨、来校と講演、万博会期中のパビリオン等での交流の実現について依頼)

R6.10.9～11.8	オンラインでの創作ダンス練習
R6.11.26	文化やスポーツを通じたリアル交流
R6.12.11	創作ダンスビデオレター撮影
R7.1月上旬	ビデオレター交換
R7.3.1	ブラジルデーの開催

(5) 実施体制

- ・ 交流の実施・企画・立案：大阪市立三軒家東小学校
- ・ 交流の企画・立案の補助：万博国際交流プログラム事務局（NTT データ経営研究所）
- ・ 交流会の運営・交流先及び大使館対応等：委託事業者（グリーンアップル、八芳園）
- ・ 交流サポート及び関係先との調整：大阪市教育委員会指導部初等・中学校教育担当
- ・ 内閣官房等関係先との調整：大阪府・大阪市万博推進局機運醸成部参加促進課

(6) プロジェクトの目標に対する成果

今回の国際交流プログラムでの経験を通じて、児童のブラジルの社会・文化への関心が高まるとともに、多文化共生社会の実現に向けた理解を深めることに寄与した。

三軒家東小学校における波及効果としては、今回の国際交流を通じた学びを通じて、児童たちが日本とブラジルとの関係をはじめ、他国との橋渡し役となる国際的な人材に成長していくことが期待できる。

その他、ブラジル大使館、地域関係者、保護者の参加を通じて、ブラジルへの大阪（大正区）の認知度を高めるとともに、大正区におけるブラジルの認知度を高めることができた。

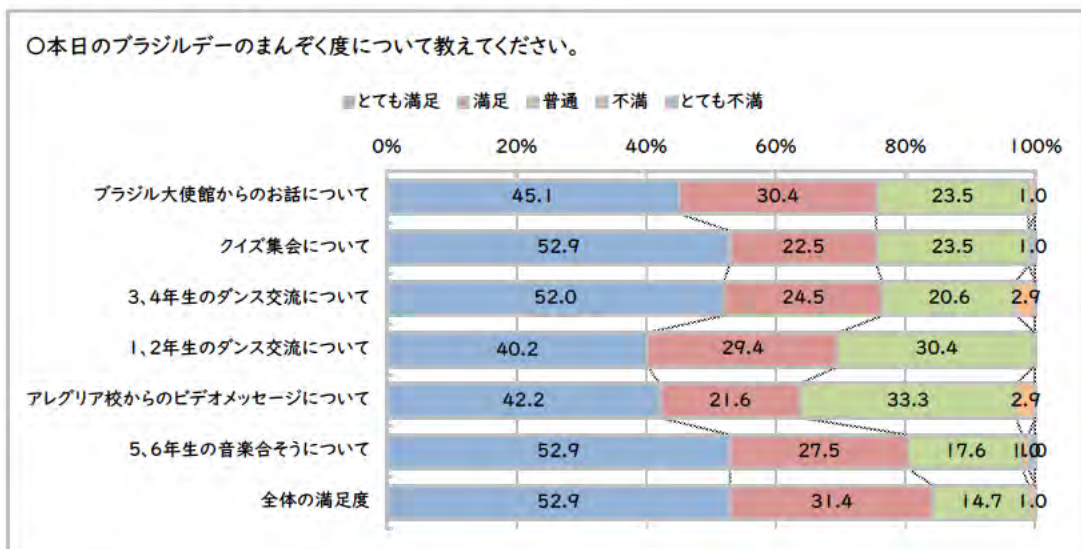
交流計画に記載した「期待される事業の目標・効果」に対する成果」として、児童に対するアンケート結果をもとにまとめる。

①交流へ参加した児童の満足度

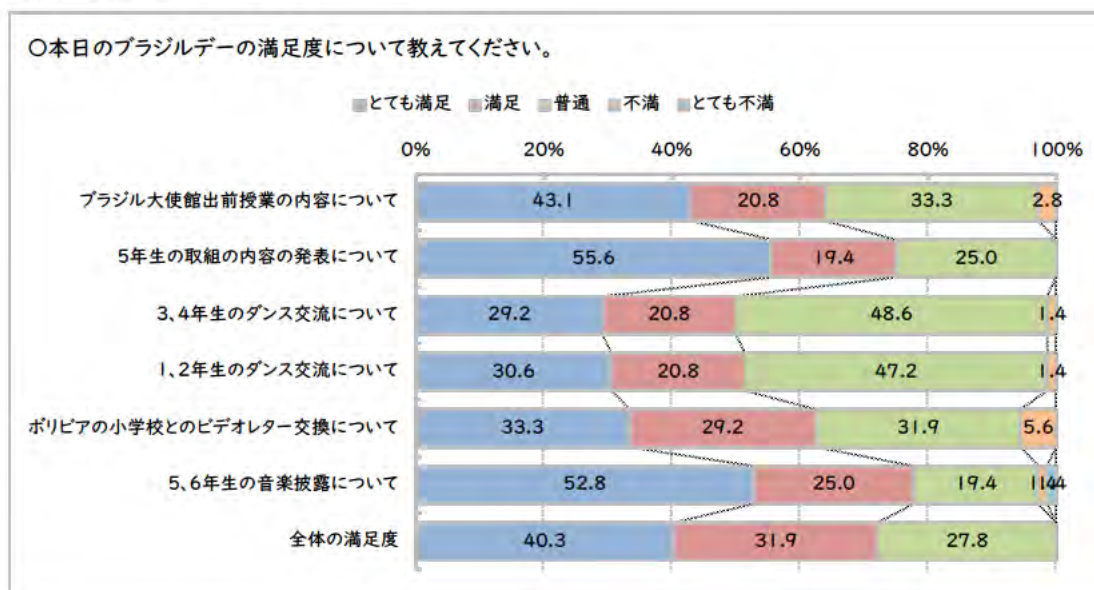
全体の満足度をみると、3・4年生では84.3%、5・6年生では72.1%の児童が満足と回答しており、7割以上の児童が今回の交流を好意的にとらえている。

【アンケート結果】

3・4年生



5・6年生



②交流相手国の理解

今回の交流を通して、交流相手国（ブラジル）に対する興味・関心は高まりましたかという質問に対して、3・4年生では88.2%、5・6年生では77.8%の児童が、「とても興味・関心が高まった」、「興味・関心が高まった」と回答しており、多くの児童が興味・関心が高まったと回答している。

【アンケート結果】

3・4年生

○あなたは今回のブラジルデーをとおして、ブラジルに対する興味（きょうみ）・関心（かんしん）は高まりましたか。（n=102）



5・6年生

○あなたは今回のブラジルデーをとおして、ブラジルに対する興味・関心は高まりましたか。（n=72）



③万博への理解や期待

3・4年生では88.3%、5・6年生では73.6%の児童が、「とても興味・関心が高まった」、「興味・関心が高まった」と回答しており、多くの児童が興味・関心が高まったと回答している。

【アンケート結果】

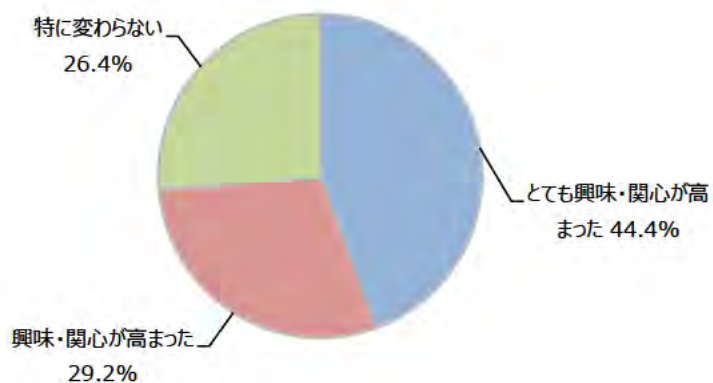
3・4年生

○あなたは今回のブラジルデーをとおして、大阪・関西万博に対する興味（きょうみ）・関心（かんしん）は高まりましたか。（n=102）



5・6年生

○あなたは今回のブラジルデーをとおして、大阪・関西万博に対する興味・関心は高まりましたか。（n=72）



成果が出なかったこととしては、万博開催期の会場内での交流について、今年度内に会場内での交流内容を明確化させることをめざしてきたが、今年度内の内容決定までは至らなかった。

大使館とも引き続き、相談しながら、今回の交流で、継続的な交流が可能となったアレグリア校とも連携しながら、次年度の具体的な交流内容を検討していきたい。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博後も交流を継続して、アレグリア校との交流をさらに深め、姉妹校締結をめざしたい。

駐日ブラジル大使館やエスコラ・アレグリア・デ・サベール鈴鹿校との継続的な連携や交流を定着させることで、三軒家東小学校を中心として、地域全体が参加できるような交流の取組につなげていきたい。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- オンラインによる交流だけではなく、交流相手国の児童が実際に学校を訪問し、対面での交流を深められたことで、万博を機会とした国際交流の取組が児童の一生の思い出となったこと。
- ブラジルデーを土曜参観という形で保護者や地域に広く参加してもらったことで、国際交流の取組を通じた三軒家東小学校の教育に対する理解が深まったこと。
- 交流相手校としてアレグリア校や交流相手国としてブラジル大使館との信頼関係が深まったこと。

2) 苦労した点

- 学校全体で国際交流に取り組むにあたって、学校長のリーダーシップのもと、教職員の共通理解を得ながら、目標に向かって準備や打合せ、調整、児童への指導を実施したこと。
- 学校行事との調整、事前交流に向けた準備・手配、保護者への説明。

(9) 今後の課題

- 交流のコーディネート事業者による支援がある期間に、将来的に継続できる取組をするための準備や体制づくりを、どのように考えて構築していくか。
- 引き続き、大使館等、アレグリア校との交流を実施し、万博会期中の会場内での交流の実現と学校間交流を一層進め、万博後の姉妹校締結をめざしていきたい。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

会期中の会場内（パビリオン）でのリアル交流の実現

大使館関係者の地元招聘

アレグリア校の児童招聘とオンライン交流の実施（リアル・オンライン）

(万博閉会后)

アレグリア校とのオンライン交流の継続

（11）持続的に展開するための工夫

- 学校の教育目標に国際交流の取組を明確に位置付ける。
- 校内の教職員の業務分担（校務分掌）として、国際交流の担当を位置付ける。
- 地域や関係機関（国際交流センター等）との連携協力体制を構築する。

I. 大阪府大阪市（ペルー）

（1）背景と目的

1) プロジェクトの背景

大阪市西淀川区の出来島地域は、これまでも外国籍の方との関わりをもつため、様々な取り組みを行っている。しかしながら、現状は同じ国のコミュニティは独自で形成されているが、地域や他の国籍同士の交流がないと推察する。

2) プロジェクトの目的

西淀川区在住のペルーの方が大阪市 24 区で 1 番多いことから、地域のペルー国籍の方との繋がりをもち、交流イベントを開催することで、様々な国籍や地域の方との繋がりを持つ機会を作る。

（2）事業内容

1) きら☆きらフェスティバル～ペルーと日本の絆～

【日程】令和 6 年 11 月 3 日（日・祝）10 時 30 分から 18 時

【場所】大和田川公園（西淀川区出来島 2-1）

【プログラム】

【チラシ】

10:30	開会宣言
10:32	主催者挨拶(西淀川区長)
10:37	商店会会長挨拶(出来島商店会会長)
10:39	開催にあたってのメッセージ(駐名古屋ペルー総領)
10:44	来賓紹介
10:54	出来島商店街とペルーとの関わりについて
10:59	ステージオープニング
11:01	ダンスグループ(マリネラ)
11:11	アナ ラティン ダンス(ネグロイデ)with DJ
11:16	ケナ
☆ 11:31	大和田創作エイサー舞&結
11:51	ダンスグループ(サヤ)
12:01	アイコグループ
☆ 12:11	樟蔭中学校ダンスクラブ
12:36	イネス
12:51	アルマンド 日系バンド
13:11	トンバンド
13:31	アナ ラティン ダンス
☆ 13:41	西淀川区老人福祉センターフラダンスサークル
14:06	サルサボル 日系バンド
14:31	ピエロショー
14:46	ダンスグループ(カホン)
14:56	サルサボル 日系バンド
☆ 15:16	漫才 エクスプロージョン
☆ 15:36	漫才 女と男
15:51	トンバンド
16:11	AGダンスグループ
☆ 16:21	漫才 スキンケア大学
☆ 16:31	らっふる抽選会
17:01	開会宣言
17:03	アルマンド 日系バンド
17:23	トンバンド
17:43	サルサボル 日系バンド
18:00	イベント終了





【ペルーのステージ】



【日本のお笑いステージ】



【ペルーのステージ】



【万博 PR ブース】



【ペルー雑貨】



【抽選会】



【日本側出店ブース】



【ペルーの飲食物】

当日、ステージでは、出来島商店街とペルーとの関わりの話、ペルーのダンス、音楽、歌を始め、日本のお笑い芸人（吉本興業）によるネタの披露、地元の方のエイサー、フラダンス、中学校のダンスクラブによるダンスなど様々な演目を行う。

出店ブースも、ペルーの飲食店、地元（日本食や多国籍料理など）の飲食ブースや雑貨販売、万博PRブースやペルー共和国のPR動画を流すなど、あわせて約30ブースが出店。

見ること、味わうことで知っていただく機会となった。

（3）実施に至った経緯

出来島商店会では、2023年7月に地域のペルーの方々を中心に「ペルー独立記念日のフェスティバル」イベントを実施。既に商店会とペルーの方との交流実績があり、今回のイベント規模においても、交流イベントの実施が可能であったため実施した。

（4）実施スケジュール

R6.7.～ 関係者によるイベント規模の打合せ

R6.8.～ ペルー側の出演者の調整

R6.10.～ イベントのハード面の見積、業者の確定

R6.11.3～ イベント開催

（5）実施体制

主催：西淀川区役所

各関係先（ステージ・テントの設置、出演者など）のイベントに関する調整全般

協力：出来島地域活動協議会

イベント当日の出店ブースの協力、地域への広報周知

協力：出来島商店会

イベント当日の出店ブースの協力、店舗での映画上映会、ステージでの抽選会運営など

ペルー側の演者、出店者については、地域のペルーの方が調整

日本側の出店者は出来島商店会

（6）プロジェクトの目標に対する成果

本プロジェクト実施により西淀川区の課題の解決に寄与した点としては、ペルー共和国と日本の交流を中心としながらも、ステージ・出店ブースでは、様々な国の演目を実施、様々な国の食べ物を提供した事である。それにより、ペルー共和国のことを知っていただく貴重な機会となったこと、国や、万博のことに興

味を持っていたイベント内容となった。また、ペルー領事館や、ペルー大使館との繋がりも出来、万博に向けてより一層交流人口の拡大が望めると示唆される。

区内の住民に対しては、ペルー共和国の文化（音楽・踊り・飲食物・雑貨）をイベントにより知っていただく機会が出来、少なからず興味を持っていた。また、大阪・関西万博を PR したことにより、来場者の万博の期待度が増した。

成果が出なかったものとしては、広報・周知方法についてである。SNS などを活用したが、効果が不明瞭であった。チラシを作成し、出来島近隣への各戸配布、区役所 HP、X など周知を図った。

今回の活動を踏まえて明らかとなった課題としては、ペルーと日本との習慣の違いである。イベントにおいて、我々（日本側）は、出演料の事後払いと認識していたが、ペルー側は、出演料の事前払いを基本としており、結果イベントの当日払いを行った。それぞれの国の習慣に違いがあり、一つ一つ説明や確認が必要だと感じた。

（7）大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

多文化交流は、それぞれの文化を理解し、共存することが大切であり、地域の人々が一体となってイベントを成功させようとする事は、多文化共生を深めるうえで非常に重要な役割を果たすことがわかった。これは、地域コミュニティの絆が強まり、長期的な地域の発展にもつながると考えられる。

また、これから開催される大阪・関西万博に向けても、地域に多くのポジティブな影響を与え、持続可能な未来への一歩を踏み出す素晴らしい機会になったと示唆される。

（8）特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

ペルー共和国の文化（音楽、ダンス、食や雑貨など）に直接触れることが出来、参加された方には、ペルーの文化を肌で感じ、理解していただけたと感じた。

2) 苦労した点

予算の関係で、イベント全体を事業者へ委託することが出来ず、各事業者と個別で調整を行ったため、交渉や事務処理などが煩雑になった。

（9）今後の課題

昨年開催したイベントや 2025 年開催予定の交流イベントは、区役所が主催であるが、万博開催以降は、地域が主体的に交流イベント等を行うため、継続的に交流が行われるような仕組みを構築する必要がある。

（10）今後の展開内容

（万博期間中）

- 万博会場にて、ペルー共和国のナショナルデー（2025 年 8 月 9 日）でのイベント参加。
- 万博関係者との交流、及び万博来場者にペルーと日本の絆をアピールする。

（万博閉会后）

西淀川区で開催されるペルーの文化交流イベントについて、広報支援を行い、関係機関にも周知し、繋がりを継続していく。

（11）持続的に展開するための工夫

区役所が主体的に交流イベントを計画するのではなく、日ごろから地域で交流を深め、コミュニケーションを取り合う仕組みづくりが重要である。

J. 鳥取県

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

大阪・関西万博に、ジャマイカが参加を正式決定したことに伴い、ジャマイカ・ウェストモアランド県（H28 姉妹提携）、駐日ジャマイカ大使館及び在ジャマイカ日本国大使館と連携した国際交流を実施することとなった。コロナの終息に伴い、ジャマイカとの往来を伴う交流について一部は再開したものの、現地治安情勢の悪化により青少年派遣等は再開できていない。

2) プロジェクトの目的

本県は、日本の自治体とカリコム諸国間で唯一の姉妹提携を締結しており、他自治体では体験することができない異文化交流を実施してきた。近年では、ウェストモアランド県とSDGsをテーマとした青少年交流にも取り組んでおり、ジャマイカの青少年と県内青少年が交流し、お互いの文化や自然等について情報共有することで、両地域の違いを比較し、自身の環境を見つめ直す機会を提供する事業を展開してきた。

万博の理念に照らし合わせ、このような取組を更に発展させるとともに、本プロジェクトを活用しウェストモアランド県との交流をより一層深化させることで、文化交流・学生交流・課題解決交流などを通じて両地域のグローバル化、活性化、観光振興へ繋げていく。

(2) 事業内容

1) ジャマイカ人歌手と高校生の音楽交流及び日本ジャマイカ国交樹立 60 周年記念コンサート

駐日ジャマイカ大使館及び（一財）民主音楽協会より、ジャマイカとゆかりのある鳥取県でのコンサート開催の打診があり実施した。

【日程】令和6年5月14日（水）～令和6年5月15日 2日間



【音楽交流】



【コンサート】

2) PHOTO♡ONE LOVE ～ジャマイカと日本を写真でつなぐ写真展～

日・ジャマイカ国交関係樹立 60 周年を記念して、（公社）日本写真協会が「ジャマイカと日本を写真でつなぐ写真展」をジャマイカ及び東京にて開催した。

【日程】令和 6 年 11 月 4 日（月）～11 月 13 日（水） 10 日間

参考：東京会場：10/24～10/29 於：ホテルヒルトン東京アーツスクエア

ジャマイカ会場：9/15～10/16 於：国立美術館（キングストン）



【万博博覧会協会による万博 PR】



【リチャーズ駐日ジャマイカ大使挨拶】



【オープニングセレモニー】



【写真展】

3) ジャマイカ・ウェストモアランド県及びキングストン訪問

【日程】令和 7 年 2 月 18 日（火）～2 月 20 日（木） 3 日間

大阪・関西万博におけるジャマイカナショナルデー（8 月 6 日）において、県内高校生とジャマイカ青少年団がコラボパフォーマンスを行うため、ステージのパフォーマンス披露や来県に向けた実務協議をした。



【現地 NPO との協議】



【ウェストモアランド県との協議】

県立岩美高等学校から、かねてよりオンライン交流等でつながりのあるウェストモアランド県のリトルロンドン高校との姉妹校締結の提案があったことから、姉妹校締結式を行うこととなった。



【姉妹校締結】



【天皇誕生日レセプション】

(3) 実施に至った経緯

音楽コンサートについては、駐日ジャマイカ大使館及び（一財）民主音楽協会からの打診により、鳥取県での実施が実現した。

写真展については、日・ジャマイカ国交関係樹立 60 周年を記念して、（公社）日本写真協会が「ジャマイカと日本を写真でつなぐ写真展」をジャマイカ及び東京にて開催することとなり、大阪・関西万博に向けて、県民にジャマイカに対する理解・関心を深めてもらうとともに、ジャマイカとの友好関係をより強固なものにし、ジャマイカとの交流の機運醸成を図るために、本県も駐日ジャマイカ大使館と連携して本事業に参画することとした。

ジャマイカ・ウェストモアランド県及びキングストン訪問については、大阪・関西万博におけるナショナルデーにおいて、ジャマイカの青少年団と県内高校生がステージ上でパフォーマンスすることが決まっており、その打合せを兼ねて訪問した。また、リトルロンドン高校との姉妹校締結の話もあり、訪問することになった。

(4) 実施スケジュール

1) 音楽コンサート

R6.5.14 県立岩美高等学校との音楽交流会

R6.5.15 コンサート

2) PHOTO♡ONE LOVE ～ジャマイカと日本を写真でつなぐ写真展～

R6.11.4 万博博覧会協会による万博 PR 写真展オープニングセレモニー

R6.11.4～11.13 写真展

3) ジャマイカ・ウェストモアランド県及びキングストン訪問

R7.2.18 現地 NPO 団体と 8 月万博への招へいに係る実務協議

R7.2.19 ウェストモアランド県知事表敬訪問、次年度の交流に係る協議

県立岩美高等学校とウェストモアランド県リトルロンドン高校の姉妹校締結

R7.2.20 天皇誕生日祝賀レセプションにおける鳥取県及び万博 PR

(5) 実施体制

1) 音楽コンサート

主催： 駐日ジャマイカ大使館、文化庁、鳥取県、MIN-ON

2) PHOTO♡ONE LOVE ～ジャマイカと日本を写真でつなぐ写真展～

主催： (公社) 日本写真協会

後援： 駐日ジャマイカ大使館、日本外務省ほか

協力： 鳥取県

3) ジャマイカ・ウェストモアランド県及びキングストン訪問

鳥取県交流推進課

鳥取県立岩美高等学校

ウェストモアランド県

リトルロンドン高校

在ジャマイカ日本国大使館

(6) プロジェクトの目標に対する成果

成果としては、コロナ禍で中断となっていた往来を伴う交流について、青少年派遣やマラソン交流等、再開に向けた協議を進めることができた点が挙げられる。県内の波及効果として、大阪・関西万博や交流再開に向けて、県内での機運醸成をはかることができた。また、ジャマイカに対しても、鳥取県とウェストモアランド県が姉妹提携していることや高校間の姉妹校締結について、ジャマイカ全国紙のウェブ版に掲載され、多くの方に知っていただくことができた。県内のジャマイカ文化及び多文化共生社会への理解を促進することができた。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

県内高校生のジャマイカ文化体験や高校間の姉妹校締結を通して、県内高校生の異文化への理解を促進するとともに、草の根レベルでの青少年交流を続けていきたい。

(8) 特に良かった点、苦労した点

3) 良かった点

ジャマイカ文化に興味をもつ県民が多くいること

ジャマイカとの交流を機に英語や異文化に興味を持つ生徒がいること

4) 苦労した点

ジャマイカの治安情勢及び現地との連絡調整

（9）今後の課題

ジャマイカの治安情勢（外務省発表：レベル2）が課題である。今後も訪問する際は、ウェストモアランド県と連携した警備体制（現地警察の鳥取県青少年団への随行等）は必須である。

（10）今後の展開内容

（万博期間中）

県内におけるジャマイカ料理教室の開催

万博ジャマイカナショナルデー（8月6日）における日・ジャマイカ青少年団のコラボ

ジャマイカ青少年団と県内高校生の青少年交流

（万博閉会后）

県内高校生のジャマイカ派遣

（11）持続的に展開するための工夫

鳥取県・ウェストモアランド県姉妹提携10周年（令和8年/2026年）に向けて、ウェストモアランド県及び駐日ジャマイカ大使館と連携し、交流の深化に向けた計画策定を行っていく予定である。

K. 広島県北広島町

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

今回、交流先に選んだドミニカ共和国とは、2020 年東京オリンピック実施の際ホストタウンで柔道選手の事前合宿を受け入れたことをきっかけに、オリンピック終了後も継続した交流が行われている。今回、ドミニカ共和国が万博への参加を表明され、より密接な交流を行いたいが予算面等で実施が難しいという課題があったため、本プロジェクトへの参加を希望した。

2) プロジェクトの目的

万博を契機として、ドミニカ共和国と更なる交流を行うことで、北広島町の児童生徒にとって野球や柔道などにおけるトップアスリートとの交流機会の創出を行うこと、また北広島町とドミニカ共和国の間の親睦をより深めることを目指す。その他、町の情報発信や町内の宿泊施設利用に伴う経済効果の期待も見込んでいる。

(2) 事業内容

1) ドミニカ共和国・日本外交樹立 90 周年記念 ドミニカ共和国大使館×カーブ×北広島町 友好親善交流イベント

北広島町の児童生徒を対象に、ドミニカ共和国出身のダンス講師によるダンスレッスン、広島東洋カープのドミニカ共和国出身選手による交流、その後参加者全員で阪神戦を観戦した。

【日程】令和 6 年 9 月 27 日（金）15：00～



【ドミニカ共和国出身講師によるダンスレッスン】



【参加者全員での集合写真】



【ドミニカ共和国出身カープ選手との交流】



【参加者全員で野球観戦】

2) ドミニカ共和国との交流事業に係る現地での事前協議

令和6年11月のドミニカ共和国生徒の来日に係り、来日生徒・保護者・関係機関等と事前協議を行った。事前協議にあたっては、元ドミニカ共和国大使 牧内氏が同行した。

【日程】令和6年10月22日（火）～10月27日（日） 6日間



【来日予定生徒・保護者との集合写真】



【在ドミニカ共和国大使との集合写真】



【ドミニカ共和国柔道連盟関係者】



【カープアカデミー訪問】

3) ドミニカ共和国生徒来日

ドミニカ共和国の生徒 5 名、引率者 1 名の計 6 名が北広島町へ来町し、中高生との交流、町内文化施設・商業施設の訪問を行った。また、東京に移動し、大使館を訪れ今回の交流について大使へ報告した。

【日程】令和 6 年 11 月 14 日（木）～11 月 20 日（日） 7 日間



【町内中学生とのけん玉交流】



【高校生神楽部による舞の披露】



【北広島町役場にて、副町長・教育長へ挨拶】

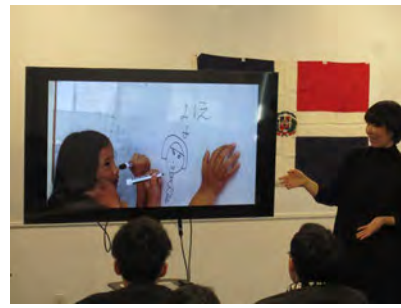


【ドミニカ共和国大使館訪問】

4) 異文化について学ぼう！講演会

元 JICA 短期日系ボランティアの方を講師に招き、ドミニカ共和国の文化について学ぶとともに、外国の方と交流するにあたっての心構えを学んだ。会の冒頭では、内閣官房国際博覧会推進本部事務局の方に「大阪・関西万博」について講演いただいた。

【日程】令和 7 年 2 月 22 日（土）13：30～



【内閣官房国際博覧会推進本部事務局による万博説明】 【講師によるドミニカ共和国説明】



【ドミニカ共和国の衣装、小物展示】

【スペイン語講座の様子】

(3) 実施に至った経緯

- 1) 2020 年東京オリンピックの際、ホストタウンとしてドミニカ共和国選手（柔道）の受け入れを行う中、応援メッセージを広島東洋カープのドミニカ共和国出身選手からいただくなどの交流があった。今回、ドミニカ共和国大使館から、北広島町の児童を招待し、ドミニカ共和国ならではのダンス交流とカープ試合観戦のイベントの提案をいただき、広島東洋カープと連携しイベントを実施した。
- 2) ドミニカ共和国の生徒を招き北広島町で交流を行うにあたり、招待予定の生徒が未成年であることから、保護者と生徒への説明を行う必要があると判断したこと、また今後の事業実施にあたり関係機関との交流を行うことでスムーズな事業実施が出来ると判断したことから実施に至った。
- 3) 北広島町の児童生徒とドミニカ共和国の児童生徒は対面での交流を行ったことがなく、今後のさらなる交流を深めるきっかけになる取り組みとして、計画をした。招待する生徒の選定にあたっては、元ドミニカ共和国特命全権大使である牧内博幸氏に協力いただき、現地の中学生～高校生相当が通う数学体験館に通う生徒のうち、日本への興味があり成績優秀な生徒を現地に選出していただき、生徒 5 名引率者 1 名含め計 6 名を招待した。
- 4) 2020 年東京オリンピック後も継続した交流を行っているが、未だドミニカ共和国の文化などについて知らない町民も多く、来年以降も引き続き取り組みを行っていく計画をたてる中でより多くの方に知っていただくことを考え計画した。会の冒頭には内閣官房国際博覧会推進本部事務局の方による

「大阪・関西万博」の説明を行っていただき、万博に対する機運醸成を図った。

(4) 実施スケジュール

1) ドミニカ共和国・日本外交樹立 90 周年記念 ドミニカ共和国大使館×カープ×北広島町
友好親善交流イベント

R6.8.5～ 北広島町役場にて、ドミニカ共和国大使、北広島町長で協議

R6.8.8～ 広島東洋カープにて、関係者でイベント実施について協議

R6.9.27～ イベント実施

2) ドミニカ共和国との交流事業に係る現地での事前協議

R6.7.5～ 元ドミニカ共和国特命全権大使との事業計画協議

関係機関（ドミニカ共和国大使館、現地機関、外務省等）との調整

R6.10.22～R6.10.27 現地訪問

3) ドミニカ共和国生徒来日

R6.10.22～ 現地への事前協議時に来日予定生徒・保護者に対する説明会を実施

来日時訪問先との連携調整

R6.11.14～11.20 ドミニカ共和国生徒来日

4) 異文化について学ぼう！講演会

R6.12～ 講師との連携実施

町内中高への広報、町 HP 等を使用して集客を実施

R7.2.22 講演会実施

(5) 実施体制

1) ドミニカ共和国・日本外交樹立 90 周年記念 ドミニカ共和国大使館×カープ×北広島町
友好親善交流イベント

- ・ 駐日ドミニカ共和国大使館（ダンス講師との連携、内容調整等）
- ・ 北広島町（関係機関連携、講師打ち合わせ、バス手配、学校通知、会場準備、司会等）
- ・ 広島東洋カープ（大使館窓口、会場予約、選手スケジュール調整、広報等）

2) ドミニカ共和国との交流事業に係る現地での事前協議

- ・ 牧内 博幸氏（元ドミニカ共和国特命全権大使：現地関係機関との連絡調整）
- ・ 在ドミニカ共和国大使館（現地訪問先への日程調整等）
- ・ 北広島町（渡航に関する連絡調整等）

3) ドミニカ共和国生徒来日

- 北広島町（訪問先スケジュール調整等）
- 駐日ドミニカ共和国大使館（来日時に対応等）
- 牧内 博幸氏（現地関係機関との連絡調整）

4) ドミニカ共和国生徒来日

- 北広島町（イベント実施に係る準備等、広報）

(6) プロジェクトの目標に対する成果

- ドミニカ共和国出身のプロ野球選手と交流が出来たことでトップアスリートとの交流機会の創出を行うことが出来た。また、選手交流の前にドミニカ共和国発祥のバチャータ（ダンスの一種）を参加者全員で踊ることで、文化について知ることが出来て、一体感が生まれた。参加者からもドミニカ共和国の文化に触れることができ、野球選手と交流が出来たことは貴重な経験であったとの報告を受けている。
- 来日生徒の保護者からは、事前に対面で説明を受けることが出来て、不安が解消できたとの報告を受けた。また関係機関への訪問を行うことで、今後の交流についての協議も行うことが出来、計画作成にあたって効果があったものと判断できる。
- 同年代の交流を実施する中で、今まで時差の関係で行うことが出来なかったリアルタイムの交流を行うことが出来た。お互いの国の文化について紹介しあうことが出来、非常に有意義な時間であった。町の中高生は自分たちの町を紹介するにあたり、改めて町の魅力について紹介方法を検討するなどふるさと教育にも効果があったと考えられる。
- ドミニカ共和国の文化について、今までアプローチが出来ていなかった町民（高校生～大人）についても周知し、知ってもらうことが出来た。合わせて、大阪・関西万博についても伝えることが出来たことで万博に関する興味関心が得られた。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

以前から交流のあるドミニカ共和国ではあったが、今回対面で交流することが出来たことで、以前にも増してドミニカ共和国について知ることが出来た。今回の取り組みをより深めていけるよう、今後も継続した取り組みを行っていきたい。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

事前視察の際に訪問した各施設については、今までメール等でのやり取りのみ行っていたが、今回、対面にて意見交換を行ったことで、今後の交流内容についてヒントを得ることが出来た。また、各学校に訪問し、北広島町の児童の動画をみてもらい、メッセージポスターを渡すことが出来、感動していただけたの

で良かった。

また、直接現地を訪問することでドミニカ共和国の雰囲気を担当者として肌で体感することが出来、人の温かさや町の様子などを知ることが出来たので、今後町民にも伝えていきたいと考えている。

2) 苦労した点

当初の計画では北広島町の子ども達への体験と文化学習のため、子どもの交流に関しては北広島町からドミニカ共和国へ児童生徒が訪問する予定で調整を行っていたところだったが、外務省発表の危険度レベル 1 にドミニカ共和国が該当していることから計画変更を行い現地から招待する計画に変更した。その際、招待する子どもについてはがき等で交流のあった小学生は難しいと判断したことからどういった基準で招待するかについては苦労した。元ドミニカ共和国特命全権大使の牧内氏に協力を仰ぎ、数学体験館に通う生徒を選んでいただいたことで解消できた。

もう一点苦労した点については、ドミニカ共和国の母国語がスペイン語であることである。ドミニカ共和国の方と話をする際、町担当者が英語なら会話が出来る程度だったため、英語を話すことが出来るドミニカ共和国の方としか会話では交流が出来なかった。それ以外は通訳ソフト等に頼りながらなんとか交流を行った。

(9) 今後の課題

今後想定される課題としては、交流を深化させていくための手段の検討が考えられる。

実際にドミニカ共和国に訪問するには、危険度レベルが下がらない限り北広島町からの渡航は危険が伴うことから、町の子どもの移動は難しく、令和 6 年度同様来日いただく形での検討になる。実施するにあたり、関係機関との密な連携が必要であることが考えられる。

また、ドミニカ共和国は時差が 13 時間あるため、交流を行うにあたりオンラインでのリアルタイムな交流については実現が難しいと想定され、ビデオメッセージでのやり取りを、インターネットを介してすることのみに限定される。そのほか、ドミニカ共和国では郵便が不着になるケースもある（令和 6 年度実施分でも不着あり）。

こうしたことから交流手段や相手方を限定した交流の実施のみになることが想定される。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

- ・ 万博関係者を北広島町に招き、文化施設の案内、学校での児童生徒との交流
- ・ 北広島町伝統芸能神楽の見学
- ・ 生徒を万博へ招待しドミニカ共和国のナショナルデーへ参加
- ・ ユネスコ無形文化遺産「壬生の花田植」を見学していただく。
- ・ 東京 2025 世界陸上大会への応援・交流

(万博閉会后)

- ビデオメッセージでの交流
- ドミニカ共和国出身カープ選手との交流 等

(11) 持続的に展開するための工夫

- 本事業に対して、多くの人員を割くことは自治体として難しいため、通常業務をしながら本事業を行うこととなる中、関係機関との連携を密にとることが大事である。庁舎内関係課等で本事業について実施体制等の検討などを定期的に行うことで連携が図れるものと考えられる。
- 人事異動が定期的に行われる中でも、本事業を行うことで最終的にドミニカ共和国との友好関係を深化させるという目的を整理した上で、引継ぎを丁寧に行う。

L. 香川県

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

ブラジルでは、本県出身者及びその子弟で構成されるサンパウロ市のブラジル香川県人会、ベレン市の北泊香川県人会の2つの県人会が活動を行っており、大正2年（1913年）に初めて県人がブラジルに移住してから令和5年で110周年を迎えた。

これまでも、本県からは県人会の記念式典等に訪問団を派遣し、交流を行ってきたほか、昭和47年以降、50年以上に渡り主に南米を対象国とした海外技術研修員受入事業を実施し、それぞれの研修員が必要とする技術を本県で習得し、県民との交流を通じて相互の理解を深め、友好増進に寄与してきたところである。

加えて、平成26年からは、各国での世代交代の進行に伴い、技術研修を受ける際に必要な日本語能力について低下傾向にあることを踏まえ、南米県人会員から選出された研修員を受け入れ、日本語研修や香川県民との交流を行い、本県の経済・社会・文化等について理解を深めるとともに、県人会活動及び出身国や県人会と本県との交流の活性化に貢献しうる人材を育成する南米交流次世代人材育成事業を実施してきたところである。

しかしながら、県人会員の高齢化、世代が進むことでの自身のルーツへの関心の薄れや日本語離れ等により、上記研修に参加できる日本語能力を有する会員の減少や若手会員自体の減少が生じている。一方で、本県からブラジルへの移住は、1960年代前半以降はわずかとなっており、ブラジルに渡った親族が身近にいた方も減り、多くの香川県出身者が住むブラジルへの関心が県内でも低下しているものと推察される。

2) プロジェクトの目的

県内の学生をブラジル・サンパウロ市へ派遣し、南米日系社会の歴史と現状を学ぶとともに、現地での本県に関するPR、県人会員や現地青年との交流等を行い、現地における本県への関心を高め、また、現地で得た知識を県民に対し発信する。

同世代の学生が訪問することで、県人会活動にこれまで積極的な参加をしていなかった方や家族は県人会に加入していても、個人としては加入していなかった方などの若年層の参加・加入を促し、本県とブラジル香川県人会との継続的な交流に向けた関係の強化を図るとともに、県民の皆様にもブラジルについて関心を持っていただき、ブラジルが万博で発信する文化や歴史、生物多様性等の情報に県民が触れる機会を設け、万博を盛り上げる機運を醸成する。

(2) 事業内容

1) ブラジル青少年派遣事業

南米日系社会の歴史と現状について知識を深めるとともに、県人会の若い会員との交流を通じて、今後継続的な交流を続けられる関係を構築するため、県内大学生等をブラジルに派遣し、現地の関係団体を訪問した。

また、現地で万博及び香川県に関するプレゼンテーションを実施し、万博に関する関心を高めるとともに、県人会員や日本に興味を持つ方に香川県の魅力について知ってもらった。

【日程】令和6年12月5日（木）～12月17日（火） 13日間

R6.12.5	高松発
R6.12.6	サンパウロ美術館、カデトラル・メトロポリターナ、ブラジル日本移民史料館視察
R6.12.7	ブラジル香川県人会との交流（東洋人街、サッカー博物館、イビラプエラ公園訪問）
R6.12.8	ブラジル香川県人会との交流（忘年会参加、プレゼンテーション実施）
R6.12.9	サンパウロ大学訪問、意見交換
R6.12.10	Colégio Móbile（現地私立学校）訪問・生徒との交流、在サンパウロ日本国総領事館表敬訪問、Apex Brasil（ブラジル政府の万博担当部門）表敬訪問
R6.12.11	ブラジル香川県人会との交流（県人会員の自宅、農場訪問）
R6.12.12	JICA ブラジル事務所、ブラジル日本商工会議所、JETRO サンパウロ事務所訪問
R6.12.13	日伯文化連盟アリアンサ文化センター訪問・意見交換、国際交流基金サンパウロ日本文化センター訪問
R6.12.14	ジャパンハウス・サンパウロ館内見学、プレゼンテーション実施
R6.12.15	ブラジル香川県人会との交流（郷土料理交流）、サンパウロ発
R6.12.17	高松着



【県人会員との郷土料理交流】



【ブラジル人学生との交流】



【香川県及び万博に関する情報発信】



【ブラジルの万博担当機関訪問】

2) ブラジル青少年派遣事業参加者に向けた事前説明会

上記事業の参加者を派遣するのに先立ち、南米への移民に対する理解を深め、また、万博、本県で開催している芸術祭に関する知識の習得、渡航に向けた準備のため、以下の日程で説明会を開催した。

【日程】

R6. 9.20 参加者顔合わせ、事業概要説明、過去の渡航経験者による説明

R6.10. 7 スケジュール案、プレゼンテーション資料作成についての説明

R6.10.16 大阪・関西万博についての説明

講師：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 経営企画室 係長
瀬戸内国際芸術祭についての説明

講師：瀬戸内国際芸術祭推進課 主幹

R6.11. 6 JICA横浜海外移住資料館オンラインツアー

R6.11.18 プレゼンテーション資料の進捗確認、旅レジ、現地安全情報等の説明

R6.11.20 ブラジル人研修生によるポルトガル語講座、現地状況の説明

R6.11.28 渡航前説明



【説明会の様子】



【ブラジル人研修生による説明】

3) 事業報告会

ブラジル青少年派遣事業に参加した大学生、大学院生 4 名が、現地で活動や交流を通じて学ん

だこと、感じたことを発表する報告会を開催し、国際交流やブラジルに興味のある県民35名が参加した。参加者による報告の後には、来場者との交流も行うことで、ブラジルで経験したことを多くの県民に直接伝えることができた。

【日程】令和7年1月19日（日）



【報告の様子】



【来場者との記念撮影】

（3）実施に至った経緯

令和4年度及び5年度に総務省「中南米日系社会と国内自治体との連携促進事業」を活用し、ブラジル大学生派遣事業を行っており、日伯双方の若い世代の交流を促進するとともに、現地県人会との関係強化を図ってきた。併せて、帰国後の事業報告会やSNSでの情報発信を通じて、本県におけるブラジル及び県人会の認知度向上に寄与してきたところである。

また、今年度は、総務省「日本とゆかりのある方々と国内自治体との連携促進事業」に採択され、ブラジルから本県にゆかりのある青少年を招き、県民との交流を通じ、本県との連携を深めると共に、ブラジル及び日系社会についての理解促進を図った。

これらの活動による相互交流への機運の高まりを基に、本プログラムを活用することで、今後の継続的な交流に向けた関係の強化が図られると考えた。

また、2025 大阪・関西万博と会期をほぼ同じくして、本県では、国内外から多くの来場が見込まれる瀬戸内国際芸術祭 2025 を開催予定であることから、本プログラムを活用して両イベントをPRすることで、相乗効果が得られると考え、万博国際交流プログラムに応募し、実施に至った。

（4）実施スケジュール

R6. 8. 8	事業採択
R6. 8.14	航空券・現地借上車等の手配に係る入札公告
R6. 8.15～20	参加者選考
R6. 8.21	参加者決定

R6. 9. 6 上記入札の落札者との業務委託契約締結

R6. 9.20～11.28 参加者説明会（全 7 回）

R6.12. 5～17 サンパウロ市への派遣

R7. 1.19 事業報告会

（5）実施体制

- ・ 香川県総務部知事公室国際課：事業の計画・立案、職員による参加者の引率
- ・ ブラジル香川県人会：県人会との交流事業における訪問先の選定・調整・同行
- ・ （株）エイチ・アイ・エス高松法人営業所：航空券、現地借上車等の手配（入札により決定）
- ・ 県内の大学、短期大学、専門職短期大学、高等専門学校：参加者募集の周知協力

（6）プロジェクトの目標に対する成果

本プロジェクトで本県から青少年を派遣することで、受け入れ側のブラジル香川県人会の若手会員が多くの行事に参加、同行してくれた。県人会の若手会員は、祖父母世代から移住前の日本の話をよく聞いており、それ故に日本の伝統を思いのほか理解している一方で、「今の日本」の姿はネットを通じてしか知りえていない。今回、自分と同世代の日本人の青少年と交流することで、漫画やアニメをはじめとした日本の流行や若者目線で見た日本・香川県の現状に触れることとなり、日本や香川に対する関心を高め、今後、彼らが県人会活動に積極参加するきっかけになったと考える。

また、今回の派遣事業に参加した学生たちは、ブラジルで香川県や万博について紹介するため、自身でプレゼンテーション資料を作成した。その過程で、日本からブラジルへの移住が行われた背景を渡航前から学び、本県の魅力を改めて認識し、また、万博についても理解を深めることになった。そのうえで、県人会員を始めとした多くの日系人やブラジルの青年等と交流し、現地に来てみなければ分からない雰囲気を感じ取ることで、周囲の友人や SNS を活用して多くの方に、リアルな声を届けることができるようになったと考える。

今回のプロジェクトでは、県人会員だけでなく、広くブラジルの方に本県及び万博を PR するため、ジャパンハウス・サンパウロでも参加学生によるプレゼンテーションを行った。会場利用に関してジャパンハウス・サンパウロの職員と調整を続ける中で、本県が行う瀬戸内国際芸術祭について関心を持っていただき、プレゼンテーション当日は、役員の方も聴講していただき、ジャパンハウスとして、瀬戸内国際芸術祭を紹介するような取り組みも検討してみたいというお話をいただいた。

また、現地で多くの方とお話をする中で、大阪・関西万博が開催されることを御存知ない方が多いという印象を受けたが、プレゼンテーションだけでなく各訪問先でも万博の話をし、本県で作成した万博関連グッズや資料をお渡しすることで、ブラジル国内における万博の知名度向上にもわずかながら貢献できたのではないかと考える。

事業実施前の計画書で設定していた目標については、以下の結果となった。

①現地でのプレゼンテーション参加人数

目標：100人 → 結果：118人

②成果報告会への参加者数

目標：50人 → 結果：35人

③派遣学生による情報発信件数

目標：40件 → 結果：55件

①について、南米香川県人会館及びジャパンハウス・サンパウロの2箇所でプレゼンテーションを実施したところ、合計で100名を超える方に参加いただき、香川県の現状や魅力、大阪・関西万博について多くの方に知っていただくことができたと思う。

南米香川県人会館でのプレゼンテーションでは、ブラジル香川県人会の協力を得て、アンケートを行ったところ、90人中43人から回答を得ることができた。アンケートの結果、プレゼンテーションにより香川県への関心が「とても高まった」と答えた方が79%、「高まった」と答えた方が21%であった。また、大阪・関西万博が開催されることについて、「知らなかったが、このプレゼンテーションで知った」と答えた方が81%、プレゼンテーションにより万博への興味・関心が「とても高まった」と答えた方が67%、「高まった」と答えた方が28%、日本を訪れる機会があれば、万博会場に「とても行きたい」と答えた方が73%、「行きたい」と答えた方が24%であった。

以上から、回答をいただいた方全員の香川県への関心を高めることができ、当初の目標を達成することができたと思う。また、日本への関心が高い県人会の方であっても、大阪・関西万博が開催されることをあまり御存じなかったところであるが、今回のプレゼンテーションをきっかけに興味を持っていただくことができた。

②については、報告会の開催を本県のホームページを用いて告知し、県国際交流協会への周知協力依頼、国際交流を行うボランティア団体への直接の案内等を行い、また、地元新聞による開催予定の報道もあったところであるが、目標人数には達しなかった。一方で、どなたでも参加できる形式としたことで、小学生から高齢者まで幅広い年代の方に派遣事業参加者が肌で感じたブラジルや日系社会の状況をお伝えすることができ、一定の成果は挙げられたと思う。

最後に、③については、参加者の自発的な発信に委ねたところであるが、参加者自身が多くの人にブラジルやブラジルにおける日系社会について知ってほしいとの思いから多くの投稿をし、目標を達成することができた。

今回の活動を通じて、県人会が若い世代同士での交流を望んでいる状況がよく分かり、また、派遣事業によって若い世代同士での交流が生まれ、それが県人会活動の活性化につながることを確認することができた。県人会員に行ったアンケートにおいても、県人会と県との継続的な交流につながる関係づくりのためには、若者同士の交流事業を今後も続けていくことが重要という意見を複数いただいた。

ブラジルと日本は地球の反対に位置し、直接顔を合わせる機会は限られるが、SNSやオンラインを活用した交流や県人会員の来県時又は本県関係者の渡伯機会を活用した交流を今後も行っていくことで、

本県とブラジル香川県人会の関係強化を図っていきたい。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今回の取組を契機として、日伯双方の若者同士のつながりを作ることができた。10 日間における現地での活動に県人会の若手会員が多数参加してくれ、参加者と連絡先を交換し、今でも互いに SNS で連絡を取り合っているとのことであった。このような人的つながりが本取組のレガシーとして今後に残り、これからの本県とブラジル香川県人会との関係強化に大きく寄与するものとする。

また、派遣事業参加者は、県人会員をはじめ、ブラジルの方々と交流を重ねたことで、ブラジルについて理解と関心を深め、帰国後のアンケートでは、全員が今後も相手国の方と交流や関りを「とても持ちたい」と答え、また、県人会員と積極的に交流していきたいと回答していた。彼らは、ブラジルや県人会の協力者・サポーターになってくれる可能性が高く、このような人材を育成できたことも今後の関係強化につながるものとする。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

今回、サンパウロへ渡航した際、県人会の若手会員が積極的に協力をしてくれた。高齢化が進むブラジル香川県人会において、若手会員が精力的に参加することで、県人会全体の活性化につながるものとする。

また、本派遣事業に参加した学生からは、今後も県人会との交流に協力していきたいとの声が寄せられ、本県が事業を行う際、なかなか情報が伝わりづらい若年層の県民への周知への協力が期待できる。

2) 苦労した点

参加者がブラジルにおける日系社会の現状、日本文化がどのように受け入れられているか、ブラジルの現状等を知る機会が持てるよう各種機関に訪問を受け入れていただいた。また、県人会だけではなく、現地の若者とも交流ができるよう、公立大学や私立の一貫校、日本語学校に訪問し、生徒との交流の機会を設けた。訪問先が多かったこともあり、アポイントや日程調整に時間を要した。

特に、ブラジルが大阪・関西万博に向けてどのような取り組みをしているのかを学ぶため、ブラジルの万博担当機関を訪問したいと考え、Apex Brasil という機関に受け入れていただいたが、当初はまったく伝手もなく苦労した。

今回、外務省や在サンパウロ日本国総領事館の御協力により担当者を紹介いただき、また、先方の担当者とは自動翻訳ツールを用いてポルトガル語でメールをやり取りし、訪問までこぎつけた。外国の一地方自治体が学生の政府機関訪問を依頼するという、一見無謀な内容であったが、協力いただいた各所の御尽力と Apex Brasil の御厚意により、実現できたことが大変ありがたかった。

(9) 今後の課題

今回、本県からブラジルへ学生を派遣し、現地で県人会員をはじめとする多くの方と交流し、また、様々な機関を訪問して、参加者のブラジルについての理解を深めたところである。一方で、本事業の参加者から県人会員に本県の紹介をしたものの、特に若い会員は、実際に本県を訪れたことがない方が多く、イメージしづらい点も多かったものと推察する。日伯の関係強化・相互理解のためには、ブラジルからも本県を訪問し、様々な体験をしていただいたうえで相互交流をすることが必要と考える。

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

ブラジルから青年を受け入れ、県民との交流や本県の文化に触れるとともに、万博会場に訪問のうえ、万博およびブラジルパビリオンを体験してもらう。併せて、ブラジル青少年派遣事業参加者等が万博会場を訪れ、ブラジルパビリオンを訪問し、そこで得た情報を発信し、県民の万博、ブラジルに対する関心を高める。

(万博閉会后)

在県ブラジル人が交流イベントや学校訪問を行うことで、県民のブラジルに対する関心を高める。また、長期的には、本県からブラジルへの訪問、ブラジルから本県への招へいを重ねていくことで、本県とブラジル香川県人会との継続的な交流に向けた関係をより強固なものにしていくとともに、派遣事業参加者と協力した事業の展開を図り、県民の皆様のブラジルや県人会に対する関心を高めていきたい。

(11) 持続的に展開するための工夫

本プロジェクト完了後においても、派遣事業を継続し、事業参加者同士が連携して本県におけるブラジル及びブラジル香川県人会との交流の窓口となっていくような体制を整備できればと考える。

また、ブラジル香川県人会においては、サンパウロ滞在中に協力してくれた若手会員や、万博会期中に検討している招へい事業の参加者が、本事業をきっかけに日本語学習へのモチベーションを高め、日本語能力を向上させることができれば、従来から本県で実施している海外技術研修員受入事業や南米交流次世代人勢育成事業への参加につながり、県人会活動を担っていく人材を育成することができるため、そのような展開が図れるよう、継続してフォローしていきたい。

M. 大分県竹田市

(1) 背景と目的

1) プロジェクトの背景

パラグアイ共和国サン・ロレンソ市とは、昭和 48 年（1973 年）10 月 28 日に姉妹都市締結。昨年、姉妹都市締結 50 周年を迎えたが、世界的なコロナウイルス感染症拡大により交流ができなくなり、周年記念事業等が実施できなかった。

万博開催を機に竹田市で脈々と継承されている日本文化（能文化・喜多流）を紹介し、毎年秋に開催している「竹田薪能」（<https://taketa-takiginoh.jp/>）などの文化紹介をはじめ、両市交流の礎といたく本事業に参加した。

平成 10 年の 25 周年を節目に交流をしていた市民が高齢となり、平成 17 年の市町合併により姉妹都市交流が希薄となり、現時点では直接的な交流が途絶えている。昨年（2023 年）1 月に在パラグアイ日本大使館を通して、サン・ロレンソ市関係者から姉妹都市交流再開の打診連絡がいただき、同年 2 月には在日パラグアイ大使館からも交流再開の連絡をいただき、周年記念事業の計画立案を開始したが調整がつかず、現在に至っている。

2) プロジェクトの目的

姉妹都市締結 50 周年を通じて、互いの都市間交流を促進し、両市の相互理解を深めることを目的に実施する。まずは、交流を再開できるように、竹田市市民訪問団（市長・竹田薪能実行委員会を中心に結成）し、パラグアイ訪問を行い、現地で大使館や関係者と意見交換を行う。

竹田市の文化を知っていただくために、能の披露やワークショップを開催し、50 周年記念事業として広くサン・ロレンソ市民との交流を実施し、来年度、大阪国際万博での交流を目指す。

(2) 事業内容

1 月にパラグアイ渡航を目指して準備を進めていたが、竹田市議会の承認が得られず渡航を断念した。今年度は、費用をかけずにパラグアイとの交流を目指して、両市の相互理解を深める目的でオンラインミーティングなどの仕組みを活用した意見交換を計画するも、年末年始や言語・時差の問題もあり、オンラインミーティングは実現できなかった。引き続き、互いの近況報告などのメール等でやり取りを実施した。

(3) 実施に至った経緯

姉妹都市締結 50 周年を通じて、互いの都市間交流を促進するため、現地での意見交換を計画したが、議会の承認が得られず、渡航を断念した。費用をかけない形での交流を目指して実施した。

(4) 実施スケジュール

2024 年 12 月～2025 年 2 月

(5) 実施体制

サン・ロレンソ市

在パラグアイ日本大使館

(6) プロジェクトの目標に対する成果

年末年始や言語・時差の問題もあり、オンラインミーティングは実現できなかったが、2025 年 4 月から開幕する大阪・関西万博や本市が 2005 年に 1 市 3 町合併により新竹田市が誕生して 20 年を迎えることなど、互いの近況報告などをメール等でやり取りを実施し、相互交流の一步を踏み出した。

(7) 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

本市においては高齢化率およそ 50%で、日本の 20 年先の未来の縮図とも言える超高齢化社会であり、特に各分野における人材不足や担い手不足が深刻である。そのような中で人材確保の一環として外国人技能実習生や外国人インターン生の受け入れを官民一体で実施している。多文化共生社会を迎える中で、姉妹都市交流を通じて相互理解を深め、世界平和の礎を築くレガシーの創造に寄与していると考えている。

(8) 特に良かった点、苦労した点

1) 良かった点

- ・一度、交流が途絶えていた姉妹都市交流を再開するきっかけとなったこと
- ・JICA など各種団体との関係を構築できたこと

2) 苦労した点

- ・言語の問題があり、コミュニケーションがスムーズにいかないこと
- ・物理的な距離があるため、人的・経済的な交流に繋げにくいこと

(9) 今後の課題

交流をしていた竹田市民が高齢となり、市町合併後交流が希薄であったことから、市民の関心度がかなり低いため、姉妹都市交流の認知度向上と新たな交流の核となる市民の確保

(10) 今後の展開内容

(万博期間中)

- ・サン・ロレンソ市との継続的な交流（メール・オンラインミーティングなど）
- ・パラグアイナショナルデーへの市民参加及び市民への活動報告

- ・サン・ロレンソ市及びパラグアイ共和国の理解を深める取り組み
(万博閉会后)

- ・サン・ロレンソ市との継続的な交流（メール・オンラインミーティングなど）
- ・サン・ロレンソ市及びパラグアイ共和国の理解を深める取り組み

（11）持続的に展開するための工夫

- ・市内外の関係団体を含め官民一体の国際交流を行う組織の構築を進め、多文化共生社会の実現を目指す。

3. 各調査対象プロジェクトのアンケート結果

各調査対象自治体の取組に参加した地域住民等に対して、アンケート調査を実施した。アンケート結果より見えてきた自治体への波及効果を記載する。

アンケート結果概要

自治体名	実施したアンケート内容	アンケート結果から見えた波及効果	万博への期待や今後の国際交流へ要望等
東京都渋谷区	・ ペルー渡航派遣学生へのアンケート ・ 広尾小学校報告会参加者アンケート	・ ペルーに渡航した学生からは、遠く離れた日本の裏側に日本人としてのルーツを誇りとして、ペルーで生活している方がいることへ気づきや、ペルーの文化や社会問題に直に触れる事で、今後、自分自身が国際社会の中で何が出来るのか、今後の進路を考えるきっかけになったこと等がアンケートから示唆された。	・ 渡航した学生による、ペルー渡航報告会のプレゼンを聞いた広尾小学校のアンケートからは、今後もペルー共和国との交流や関わりを持ちたいといった意見が多くあり、世界をもっと知る機会を持てる国際交流や、ペルー料理体験、ペルーの遊び体験等、今後の国際交流への参加意欲が高まったことが伺えた。
富山県南砺市	・ スキヤキミーツザワールド参加者アンケート	・ 万博を契機とする国際交流について 99%の方が良い取り組みと回答。他国の人との交流によって視野が広がる、地方ではなかなか得られない国際交流の機会なので活用したい、といった前向きな声が多く、万博への機運の高まりに繋がった。	・ 10代～70代までの幅広い年齢層に回答いただいたが、万博に是非行きたい、機会があれば行きたいという回答が92%あった。1970年の大阪万博に参加された方の国際交流についての好意的な意見がいくつか見受けられ、前回から引き継がれている国際交流イベントへ

自治体名	実施したアンケート内容	アンケート結果から見た波及効果	万博への期待や今後の国際交流へ要望等
			の参加意欲を感じ取ることができた。
福井県	・ ブラジルで実施した「ミニ福井祭り」参加者アンケート	・ 万博をきっかけとした国際交流について、回答者全員が「非常に良い取り組み、良い取り組み」と回答。素晴らしいイベントだった、ブラジル人と日本人学生の交流をもっと増やしたいという意見もあり、福井県の PR だけでなく、福井県と福井村の交流を若い世代に引き継いでいく機運に繋がった。	・ 万博への興味や関心についても、94%が「とても高まった、高まった」と回答。日本の真裏であるブラジルにおいても、万博への期待が高まった結果となった。年に1回以上イベントを行ってほしいという声もあり、今後の国際交流継続への期待も膨んだ。
三重県	・ 三重県とブラジルの青少年交流による相互理解促進事業アンケート	・ 三重県の人々の心や伊勢神宮についてもっと知りたいといった意見がある等、三重県への興味関心に繋がった。三重県への歴史文化への理解についても約77%が「とても深まった」と回答。	・ 万博を契機とした国際交流について、96%が「非常に良い取り組み」と回答。万博への期待や、更なる国際交流を期待する声が多く上がり、国際交流への機運が高まった。
滋賀県	・ ブラジル リオ・グランデ・ド・スール州知事来県にかかる交流イベント国内参加者向け、相手国向けアンケート	・ 国内参加者からは、全員がイベントを通して、「大阪・関西万博や相手国への興味・関心がとても高まった、高まった」と回答。万博への機運熟成にも繋がった。	・ 相手国の参加者からは、環境関連へ課題への関心や、滋賀県と今後も交流を希望する声があり、交流継続への期待が高まった。
京都府	・ 10/12 京都府民公	・ 参加者は、チリのこと	・ 良い方法を伝え合う

自治体名	実施したアンケート内容	アンケート結果から見えた波及効果	万博への期待や今後の国際交流へ要望等
	開講座アンケート ・ 2/2 京都府民公開講座アンケート	やがん治療のことを知る機会として参加した方が多かったが、回答者の93%が「期待以上のことを知ることができた」と回答。参加者にとって、満足度の高い事業であった。	交流は、真の国際交流になるという声がある等、医療を通じた国際交流への理解浸透に繋がった
大阪府大阪市（ボリビア）	・ JICA 出前講座実施後アンケート ・ ボリビア音楽交流後アンケート ・ ボリビア料理教室後アンケート ・ ボリビアデイ実施後アンケート	・ 最初の JICA 出前講座実施後アンケートでは、ボリビア多民族国に対する興味関心について、「とても高まった」と回答した児童は60.9%だったが、最後のボリビアデイのアンケートでは、86.0%にまでに増加した。イベントを重ねるごとに、児童の興味・関心がだんだん高まる結果となった。	・ 万博へ興味・関心についても、「とても高まった」と回答した児童が41.3%から80.0%まで増加した。他の国の文化を良く知るきっかけになるし、日本のことも良く知ることが出来る、といった感想もあり、万博を通じた国際交流学習に繋がった。
大阪府大阪市（ブラジル）	・ 河内音頭とサンバのダンス交流後アンケート ・ アレグリア校交流後アンケート ・ ブラジルデイ実施後アンケート	・ アレグリア校とリアルに交流できたことで、今後もアレグリア校に来てほしい、一緒にサッカーをしたい、お互いの国の言葉を教え合いたい等、具体的な交流を希望する意見があった。今後も継続した交流を熱望する状況が伺えた。	・ 万博にむけてブラジルと交流することについては、色々な国と交流することで、まだまだ知らない文化を知ることが出来る、様々な視点でものごとを考えられるし、友達の輪も広がるといった意見があり、万博への期待と国際交流を通じた学習意欲の高まりがうか

自治体名	実施したアンケート内容	アンケート結果から見えた波及効果	万博への期待や今後の国際交流へ要望等
			がえた。
大阪府大阪市（ペルー）	・ きらきらフェスティバル参加者アンケート	・ 地域や商店街の外国人への支援と共生がとても良かったという感想があった。目的であった地域との繋がりを創出させるイベントに繋がった。	・ 万博やペルー共和国のパビリオンに行ってみたいという回答が90%あり、イベントを通してペルー共和国への関心が高まった。
鳥取県	・ ジャマイカと日本を写真で繋ぐ写真展における参加者向けアンケート	・ 小中学生を含めて幅広い年代から回答があり、自国の良さやジャマイカの良さを知りきっかけとなった、といった意見が得られた。	・ 万博についてより詳しく知る機会となり、大半が万博に行きたいという回答となった。
広島県北広島町	・ ドミニカ共和国大使館×カープ×北広島町交流イベント後アンケート ・ ドミニカ共和国学生と高校生交流事業後アンケート ・ 異文化について学ぼう参加者アンケート	・ 最後に実施した異文化を学ぼうでは、参加者全員が、今後もドミニカ共和国との関わりを持ちたいと回答。ドミニカの文化を知る楽しさを体感できたことで、ドミニカ共和国についての興味・関心が町内に広まる結果となった。	・ 参加者の94.1%が関西万博に行きたいと回答。ドミニカ共和国と一緒に関西万博の説明を受けることで、関西万博への興味も高まる結果となった。
香川県	・ ブラジル青少年派遣事業参加者向けアンケート ・ ブラジル県人会向けアンケート	・ 青少年派遣団の参加者からは、今回の交流を通して、万博への理解が深まったという意見が多くあった。実際にブラジルを訪問することで、様々な文化や暮らしがあることを認識するとともに	・ ブラジル県人会より、若者同士の交流が増えること希望する声が多くあり、若い世代に交流が引き継がれることへの期待が高まった。

自治体名	実施したアンケート内容	アンケート結果から見えた波及効果	万博への期待や今後の国際交流へ要望等
		に、日本の裏側にも日本文化が浸透していることを体感できたといった意見があり、ブラジルへの興味関心が高まった。	